平成28年9月8日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜
1番 豊村貴司
3番 朝長 勇
6番 松尾陽輔
8番 石丸 定
10番 上田雄一
12番 古川盛義
15番 末藤正幸
18番 山口昌宏
20番 牟田勝浩
23番 江原一雄

副議長 吉川里己
2番 猪村利恵子
4番 山口 等
7番 池田大生
9番 石橋敏伸
11番 山口裕子
14番 山崎鉄好
16番 宮本栄八
19番 川原千秋
21番 松尾初秋
24番 谷口攝久

2. 欠席議員

17番 吉原武藤

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 友廣秀敏
次 長 江上新治
議事係 長 吉永和彦
議事係 員 杉原啓仁

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
副	教	育	浅	井	雅	司
技		監	松	尾		定
総	務	部	北	川	政	次
企	画	財	平	川		剛
営	業	部	井	上	祐	次
営	業	部	千	賀	耕	司
営	業	部	小	田		修
く	ら	し	大	宅	敬	一
く	ら	し	井	上	将	治
こ	ど	も	諸	岡	隆	裕
こ	ど	も	水	町	直	久
ま	ち	づ	古	川	清	茂
山	内	支	橋	口	一	夫
北	方	支	岩	瀬		清
会	計	管	中	野	博	之
上	下	水	笠	原	孝	久
総	務	課	川	久	保	和
財	政	課	松	尾		幸
企	画	課	古	賀	龍	一
		長				郎

議 事 日 程 第 2 号

9月8日（木）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成28年9月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
1	10 上 田 雄 一	～武雄市の今後の方向性について～ 1. まちづくりについて
2	24 谷 口 攝 久	1. 教育・文化行政について 1) 蘭学館（歴史資料館）と図書館 2) こども図書館 3) 不登校やいじめ等について 2. まちおこし・地域づくり 1) 観光と産業の振興について 2) 道路行政
3	2 猪 村 利 恵 子	～武雄市の今後について～ 1. 教育 2. 観光
4	20 牟 田 勝 浩	1. 地域活性化について 1) 特産 2) 移住政策 3) 補助事業 4) 農業 5) その他 2. I T 推進について
5	15 末 藤 正 幸	1. 安全・安心について 1) 地域防災計画について 2) 避難施設について 2. がん検診について

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

それでは日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を開始いたします。

質問は、17名の議員から52項目についての通告がなされております。

日程から見まして、本日は15番末藤議員の質問まで終わりたいと思います。

質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の報告のとおりでございます。

議事の進行につきましては、特に御協力をお願いいたします。

また、執行部の答弁につきましても、簡潔でかつ的確な答弁をお願いいたします。

それでは、最初に10番上田議員の質問を許可いたします。

御登壇を求めます。10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。ただいま、議長より登壇の許可をいただきました。上田雄一、一般質問を始めさせていただきます。珍しくトップバッターを引きましたので、早速質問に移りたいと思います。よろしく申し上げます。

今回も武雄市の今後の方向性についてということで、通告をさせていただいております。大まかな中身としましては、まちづくりについて。中身については競輪事業について、またスポーツ振興についてというような感じで2本立てでいきたいと思います。時間はぎりぎりになるかもわかりません。よろしく申し上げます。

まず、競輪事業についてでございます。競輪場が改修工事のためにクローズしておよそ1年が経とうとしておりますけれども、まずは・・・これは2012年ぐらいの写真なんですけど、すみません私が持っている写真がこの程度しかなかったものですから御紹介しておりますけれども、これは旧施設の画像です。これが新しく、計画のパース図をごらんいただければと思いますけれども、このパース図のイメージに沿って改修工事が行われていると思います。

いよいよ来月オープンを間近に控えているということで、今現在の進捗状況を確認したいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

おはようございます。上田議員の質問に答えていきたいと思っております。

現在の進捗状況ということで、競輪場、メインスタンド等の改修事業については昨年の10月から議会の理解を得て、1年間本場開催を休止して工事に取りかからせていただいております。現状として、今年8月までに新スタンドの建設はほぼ完成しております。あとは建物内の備品や外構工事が今年9月末で完成ということで、現在急ピッチで工事のほう作業をしております。

メインスタンド、今の状況ということで・・・モニターをお願いします。（モニター使用）先ほど上田議員のほうから従前の正門のほうを見せていただきました。これまで、怖い、暗

い、汚いというイメージ。それから今度の基本構想で、3つのポイントで今回施設づくりに取り組んでおります。

最初に、開放された施設ということで、従来は入場門が隔てて結局、閉塞感という部分がありました。今回はそれを取り除いて施設内動線をシンプルに、それから視界の開けた空間ということで開放性を高めています。それと敷地の多くを有効スペースにすることによって、芝生公園などのふれあい空間の整備ということで、これは8月末時点で映した映像ですので若干重機等もありますけれども、現在はこういう状況になっております。

それと、見てもらってわかるとおりコンパクトになったということで、これについては競輪機能の集約化、施設の合理化ということで、イニシャルコストやランニングコストを削減して動線としても短縮し、明るく快適な空間となっております。それと、周りがまだ芝が埋まっていないんですけど、今月中に芝を植えていきます。環境に優しいという施設づくり、できるだけ緑化に心がけていきます。

施設の中なんですけれども、まず1階フロア。これは一般席です。これは走路側からちょっと映しております。先ほども申し上げましたとおり、コンパクトにしたことで動線がかなり以前の建屋と比べれば建物内が狭くなっておりますので、短縮され場内は白をベースとして明るくしております。

館内は冷暖房完備ということで、1年間ゆったりとして観覧できるようになっています。ステージ側のほうは本来、場外発売向けという、これは本場開催でも使うんですけど、主に場外開催向けということで3レーン、4レーンのシートで155席を準備しております。

これはバンク側です。これは場開催向けということで、2レーンシート、これは記載台、カップホルダーつきで179席を準備して、お客さんとお客さんの間をゆったりととっていますので、どこでもゆったりと座れるように配置しました。

それと、右手のほうがモニター。モニターについては、ステージ側に40台、これ5セットを8ということで40台。それと、まだ大型の80インチついていませんけど、ステージの前のところに80インチの大型モニターを2台据えつけます。それと、これは北側から入って、北側というと競輪場の昔でいう裏側になりますけど、北側から入って左手のほうにフードコート、これについてもまだ今準備中ですのでまっさらな状態なんですけど、フードコートを配置し2店舗、そのフードコートの経営者2店舗が決定しておりますので、今回はファストフード等も取り入れたフードコートにしてお客様をお待ちしております。

その先にキッズルーム。ちょうどフードコートの反対側にキッズルームを設置して、小さいお子様を連れて来場可能な対応をしております。これは東側入口からのインフォメーション、総合窓口を配置しております。2階の有料席に行く受付としても使う予定です。それとトイレ。今回、女子トイレに授乳室を新しく入れて、白をベースに、これも中を明るくして以前と比べれば大変明るくなっています。

これは2階。これは有料席になりますが、有料席で個人席 16 席。団体でのお客様だった場合は3室を用意してフロア自体をゆったりと観覧してもらえるようにしました。これは指定席、ボックス席からの眺望でございます。

それからナイター。これについてはミッドナイト。これは無観覧ですけど、ミッドナイト。それからナイター競輪開催に向けてのナイター照明。今現在調整中で、今月 11 日ぐらいに最終調整が終わって検査が通れば 12 月からのミッドナイトに備えていきたいということで、これは第2センター付近、ホームステージ付近ということで照明をしているところです。

このように既存のファンだけではなくて、誰もが遊びにこられる、家族を連れてこられるという、こういう身近にある競輪場を目指しております。そういうことで議員の皆様の御理解と上田議員への答弁といたしたいと思っております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

個別にずっと聞いていこうかなと思っただけで、ある程度まとめてもう答弁いただきましたのでどんどん進んでいきたいと思っておりますけれども。

1 点だけ、まず開催のスケジュールですね。来月いよいよオープンだと思いますが、場外開催、本場開催が多分日にちが別々でいくんじゃないかなと思います。オープニングセレモニーとかそういったところのスケジュール的なことを答弁お願いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

モニターをお願いします。（モニター使用）今モニターにあらわしているとおおり、新メインスタンドのリニューアルオープンということで来月 10 月 15 日、本当は本場開催のときにやりたかったんですが、日程調整の都合上 10 月 29 日からになりましたので、10 月 15 日千葉記念からオープンを予定しております。

それとリニューアルオープンは本場開催のリニューアルオープン記念ということで、10 月 29 日ガールズケイリンを誘致しましたので、その発売となっております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

ガールズケイリンが 29 日。場外が、15 日と 29 日いよいよオープンということですね、はいわかりました。

それでですね、これ平成 26 年度 6 月議会で私この席で質問をしとったとですよ。そのときも特別観覧席だったりボックス席、S 指定席、この辺のコストパフォーマンスを満たし

ているのかというようなところで質問をしておりました。そのときも特別有料席の充実をして、とにかく快適性だったり居心地のよさを求めてすべきだという質問をしておりましたけれども、先ほどの答弁で有料席のほうも答弁がありましたのでこれはもう進めていきたいと思えます。

平成 27 年 9 月議会にてこれも質問をしておりましたけれども、今回、市長の演告の中でもインバウンドに対応した観光施設にしたいというような演告がありました。そのとき、この 27 年 9 月議会においても韓国であったり中国であったり、いろんな外国人の皆さんに向けた競輪場の施策を考えていくべきじゃないかということで質問をしておまして、その当時それは考えていかんばいかんというような答弁をいただいておったと思えます。それで今回のその演告に至るわけですけれども、このインバウンドに対応した観光施設、具体的にどのようなことを考えられているか答弁をお願いしたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

すみません、モニターお願いします。（モニター使用）国内外のインバウンド対応については、誘導案内サインを意識してモニターのように三カ国語、日本語、英語、韓国語による表記を積極的に取り入れております。

それとマークシートが一番大切になるかと思えますが、これについては、韓国語対応として韓国語対応補助シートという部分があります。今の、現状のマークシートに補助シートをつけてやるという部分の導入に向けて、現在準備を進めているところです。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。昨年 9 月に私は国際観光施設にしたいというふうに答弁をさせていただきました。議会の皆様の御理解、御協力も得ながら競輪事業所のほうでこのように進めているところであります。

私もいろいろ調べたところ、やはりメインターゲットは韓国からのお客様であろうと。平成 27 年で大体 6,000 人ぐらいが武雄に韓国のお客様来ていただいております。こういったお客様をいかに取り込むかということで今、対応しますというふうなことに加えて今後、例えばホームページとか、そういったところでも韓国語表記にするとか、そういったところに韓国語で買い方を載せるとか、そういった工夫もしていきたいというのが一つあります。

あわせて、やはりハード面ができて実際にどういふふうにお客様に来てもらうかというところが大事ですので、そこはまさに観光の仕事だと思っております。

競輪事業所、競輪ツアーのようなそういったツアー造成、旅館の方がインバウンドの営業

に行くときにはツールとしても使ってもらったり、あわせて、やはりオルレとかそういったもので来ていただくお客様に対していかに誘導していくか。ここはまさに競輪事業所だけではなく、観光課も一体となって営業部全体として対応していきたい。まさに、この競輪場を新たに観光施設として価値を生み出していきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。

ぜひたくさんの方が競輪場に足を運んでいただければと思います。市民の皆さんもぜひ足を運んでください。

そしたらですね、次この競輪場のパース図からいけば新スタンド、バンク関係は来月オープンにこぎつけているということで、あとは周辺整備になると思うんですよね。公園関係だったり、いろいろこの絵を見ればいろんなことに取り組もうとされているところが垣間見られますけれども、ここにですね、やはり今まで何度もこの席で質問をさせていただいておりますけど、BMXのコース、この自転車、競輪というところの同じくくりの中で、競輪を自転車というカテゴリーでBMXのコースを整備することがやはり非常に望ましいんじゃないかなと思うわけですよ。

ここに公園が今、イメージで書いてありますけどどうしてもやはりここに子どもたちがたくさんいることを想像したいわけですよ、にぎわっている公園を。となると、常時やはりここに人がいる仕組みづくりというのが必要になってくるんじゃないかと。このBMXというのが非常に、こっちは岸和田のBMX場、岸和田競輪の横の部分ですね。こういうふうに子どもたちが実際やっている画像になります。こっちは国際大会に出た武雄市の中尾さんの絵です。コースは、このコースをやられているところで、日本、ジャパンと胸に記載したユニフォームを着られて頑張っておられるところであります。

この岸和田の隣のBMX場も、子どもだけでなく大人も一緒にコースを楽しめるわけですよ。ぜひ、にぎわい創出のための仕組みづくりが必要だということでもお願いをしたいわけですが、今後、公園整備等々の周辺の整備のスケジュール関係の確認をさせていただきたいと思います、構想もあわせて。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

モニターをお願いします。（モニター使用）今後の公園整備計画等のスケジュールということですが、これすみません、宣伝になって申しわけないですが、再来月 11 月 12 日・・・オープンを見据えて 11 月 12 日から開設 66 周年、これ市政 10 周年もお祝いをし

ての部分で記念開催をします。それと来年度、第33回共同通信杯、皆さん御存じだと思いますが、平成23年震災の後に行われた共同通信杯が6年ぶりに武雄市に戻ってきました。9月15日から18日までということで、ビッグレースを開催しますのでよろしくお願ひします。すみません、宣伝で。

公園整備については本年中に基本設計、実施設計を行います。この基本設計、実施設計については、武雄市職員の若手職員等とも話しながらやっぱり若い人の意見を取り入れたほうがいいということで、そういう部分も取り入れて現在、基本設計を組んでいるところです。

ただ、先ほどいいましたように来年9月に大きな、G2があります。工事についてはこれが終わった後からという部分で現在進めているところです。

公園整備については、大型遊具はもちろんのこと、子どもも大人も家族で楽しめる公園の整備ということで先ほど上田議員、BMXという部分もあります。これについてはどうしても自転車、競輪場の近くですので、やっぱり自転車を中心とした部分を置かなくちゃ競輪場じゃないということで、その近くにBMXのミニコースという部分をストライダーなどそういう部分も配慮して整備してその管理等々は選手会等々と御相談、連携しながら、今後にぎわい創出のできる公園の整備を進めていきたいと思っています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

コース整備、ミニコースと今答弁がありました。ミニコースを否定するわけではなかとですけど、結局そこでミニコースを選ぶことによって最終的にはそこをしたけど、じゃあ何か大会をしよう、何か発展性を考えようとなったときに身動きとれんことになることやなかかなと私は思うとですよ。今の武雄市内のスポーツ施設と全部同じくくりになるとやなかかなと。そこで妥協ばしてしまうけんがこそ何か発展性に障害になってしまっているんじゃないかなと。

例えばですよ、野球でいえば市内の野球場は白岩球場だけですよ。条例上は白岩球場だけなんです。サンスポとかもありますけど条例上、野球場は白岩球場だけですよ。でもその白岩球場も軟式野球はできるけど硬式野球はできんわけですよ。だからそのミニコースというので取っかかりということでわかるんですけどやはり規模を、これはちょっとオリンピックと出しています。先ほどの中尾さんが日本選手団として海外に、国際大会に行かれています。その息子さんも一緒に行かれていますよ。これが武雄中学校の3年生です。彼は今、中学3年生なんですけど、全日本の国際大会、年代別の全日本大会には常に彼は表彰台に上がっているんですよ。上位3人の中に毎回入っています。本人自身も今、全日本の強化ユース育成選手になられて、2020年の東京オリンピックを実際現実として目指されているわけですよ。

さらにいうと、2年後のユースオリンピックの出場についてはもう彼が最有力だという情報を私もらいました。これはやっぱりせっかく武雄でそがんで全日本クラスで頑張っている選手がいるんだったら何とか地元が、まだメジャーになってないですからなかなかそれを応援することは難しい部分はあると思います。ただし、メジャーになってからやったらいいでん応援すつとですよ。メジャーになる前から、やっぱり地元武雄市として応援してやりたかなと思うわけですよ。多分いろんなオリンピック、今回リオオリンピックありましたけれども、やはり下積みの時代にいろんな選手も地元の支援、応援を皆さん受けていると思うんですよ。だからこそ、結局帰ってきてみんな地元で凱旋帰国みたいな格好でやられていると思うんですよ。

これは新潟県の上越市の事例になりますが、上越市がここを民間でつくられているんですよ。これはそんなにコストかけていないらしいです。とにかくできることからやろうということでやられているんですけども、要は真砂土をとにかくどんどん使うことが必要ですがコースの維持管理も結局自分たちでやっている。だから規模をミニで考えるストライダーで考えるのではなくて、お金をかけずにレギュレーションのサイズ的にクリアできる形態を探してやってつくっていいのではないかと。

コースの維持管理も、もちろん利用者さんにもお願いもしていいと思います。幸い武雄にはここに武雄競輪があるわけで、選手のOBだったり選手会のOBの皆さんもいらっしゃるわけですよ。だからそこで企画運営、イベント等々も考えながらやっていくべきじゃないかなと。

だからストライダーをやるのを否定するわけじゃないですけど、そこで規模を細かくすることで妥協してしまうと、そこから先の発展性が一切妨げになってしまうんじゃないかなと思うわけですよ。だからぜひ極力コストをかけないようなやり方を模索して、スケール的にはイベント等々、大会等々もできるクラスの部分を用意してやるべきじゃないかと私は思うわけですけども、ここについていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私も中尾選手の活躍は知っておりますし、ぜひ今後頑張ってほしいというふうに応援しているところです。まさに、武雄の一つの期待の星であるというところは間違いないかなと思っています。

一方で考えたとき、例えばこの前私のところに全国大会に出るということで、近藤君。有田中学校なんですけど武雄に住まれています。彼も将来、大きなオリンピック候補であるというふうを考えておまして、やはりいろんな未来の期待の星があるという中で、私たちとしてはやはりそういう中で行政としてどういうふうな整備をしていかないといけないかなとい

うのは費用対効果も含めて考えていかなければならないというふうに考えております。

今回の競輪場については、私もBMXのコースを実際に見に行きましたけれども、やはりあれだけの場所をとるスペースは正直ないというか難しいかなと思っております。BMXといってもオフロードとフリースタイルあるので、例えばフリースタイルもかなり人気ですのでそういったフリースタイルというところであれば一つ考える余地はあるのかなと思っていきます。

BMXのコースについては、競輪場の近くにつくるつもりは、オフロードのコースをつくる予定は今のところ考えておりません。ただおっしゃるとおり、こういったやりたいという人がコストをかけずに自分たちの手でコースをつくってやるというところは私はこれは十分考えられると思いますので、こういったやり方をまた競輪場と別にどういうやり方があるのかというのは考えていければなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

スポーツ施設ですね、BMXのですね。それについてもこれからの質問にちょっと絡みますのであれですけど、ぜひ、やはり武雄の競輪場周辺のまちづくりとして考えてもらいたいですよね。若手の皆さんも踏まえた上での基本設計だったり実施設計だったりというのが今年度中に考えていくということですので、ぜひこの件をテーブルにのせてもらって改めて考えていただきたいなと思います。

柔道も近藤君、岩瀬君というこのお二人。この年代、武雄で物すごく強い2人がいます。私物すごくいろいろつき合いもあるわけですけど、彼らの2020年も期待したいな思っておるところであります。

次に、スポーツ振興のほうに進みたいと思います。感動のリオオリンピックということで、今回終わったばかりでパラリンピックはきょうからですね。本当にオリンピック、テレビを見ながら泣いていたのは僕だけじゃないと思います。いろんな競技で感動をもらいましたし、高校野球も一緒にやっていたので本当に寝不足の毎日だったんですけど。まさか陸上で銀メダル、リレーで銀メダルがとれるなんて夢にも思っていない時代が、日本の選手もついにここまで来たんだなと感慨深いところではありますけれども、この感動を再びということで皆さん御存じのとおり2020年東京オリンピックが予定をされております。

2020年東京オリンピック、武雄市の選手が何としてでもこの東京オリンピックに出てほしいなと個人的には思っているわけですけど、そうなるとこれからの自治体は全国各地で合宿誘致合戦が始まるんじゃないかなと思うわけですよ。もう既に取り組んでいる自治体が結構たくさんいらっしゃいます。先日の新聞にも、県内の市長会が山口知事に体育施設改修への補助の要望書を提出するというような記事もあっておりまして、まさに県内の市長会もしっ

かりとそこを見ているのかなと思っております。先日も、ちょっと県の担当者と話をする機会がありましたんですけれどスポーツの今の担当部署の位置づけ、これについて今武雄市としてはスポーツに関する担当部署が教育委員会部局にあります。県内の状況を確認すると、およそ武雄は7対3なんですよね。武雄はそのうちの7に入っています、教育委員会部局に。

一方で3つの自治体はスポーツに関する担当課なんですけど、既に市長部局に入り込んで、観光だったり、健康づくりだったり、国際交流、スポーツツーリズム、都市公園整備、いろんなジャンルでほかの課と連携をしながらやっている、企画もそうでしょう。そういう中で武雄市はまだ教育委員会部局にあります。その話によると、学校スポーツ、学校体育、そこら辺については教育委員会に残しているけれどもそれ以外はほとんどもう市長部局のほうに移ったほうが良いというような話もありました。実際その3つは市長部局にあります。鳥栖だったり唐津だったりあります。伊万里は今現在、教育委員会部局にあるんですけども、伊万里も甲子園プロジェクトという課がありますので、それだけは市長部局にあるわけですよ。それもスポーツに関していろんな施策をやっていくということで。

今、国の動きも皆さん御案内のとおりスポーツ庁ができております。そこで、これまで文科省で一元管理というかやっていたところが厚生労働省だったり外務省だったり、経産省、国交省、環境省、内閣府、そこら辺でもすべてにスポーツのくくりがあるのでそれを一元化してスポーツ庁でやっていくというような流れですよ。

武雄もぜひそれを考えるべきじゃないかなと思うわけですけど、これについての答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

佐賀県、それから県内の状況について御説明を頂戴いたしました。現在武雄市では生涯学習課でスポーツを担当しております。大会誘致等については現実の問題としまして観光課、それから生涯学習課、場合によっては企画課も入りまして連携をしながら取り組んでいる状況でございます。

県内の状況について御説明をいただいたところでございますけれども、現段階ではスポーツ部署の市長部局の移行については考えていないという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

現段階で考えていないという答弁がありました。

それではここで、この新聞記事は2年前の記事なんですよね。2年前に私がこの席で質問させてもらったときに使わせてもらった新聞記事なんです。オランダ代表、嬉野でキャンプ。

女子野球のワールドカップ前に県の海外誘致第1号。これは嬉野市でことしも行われました。2年前も行われました。こういうふうに嬉野は早々と取り組んで2年前に誘致をし、今回またオランダ代表に来てもらっています。2年前の当時は、オランダから福岡空港までの直行便があったのでまだよかった。ただし今回は、その2年後のことしはオランダから福岡空港までの直行便がないと。だから選手団も3径路に分かれて、ヘルシンキで乗りかえ組と韓国で乗りかえ組と、もう一個というような感じでわざわざ乗り継ぎ乗り継ぎをして日本に合宿で来てもらっているというようなところです。

これがことしの画像なんですけれども、オランダの代表のチーム。これはナショナルチーム。ナショナルチームと対戦をしております。今回の対戦相手をしたのが、北九州にあります折尾愛真高校の女子野球部がやられておるわけなんですけれども、こういうふうに嬉野市とかほかの地区はどんどん合宿誘致に取り組んでいます。武雄市の合宿誘致に対する取り組みを聞かせていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

おはようございます。現在のスポーツ合宿誘致を含めて私どものほうが情報をいただきます経路といたしましては、佐賀県のコンベンション誘致連絡会議というのがございまして、県内の佐賀県を中心としました9市2町で構成をされておりますが、そのメンバーの一員として武雄市も入っておりますので、佐賀県のスポーツ課から武雄市のほうへ具体的な案件がありましたら情報提供があるといわれます。それを受けまして対応可能なスポーツ施設、あるいは宿泊施設のほうの提案を行っています。

そのほかには、各種スポーツ関係団体のほうから情報をいただいて、この辺は国際大会には含まれませんが全国大会でありますとか、九州大会のその規模でありますとそのほかに各種のスポーツ団体のほうから情報をいただいているという状況でございます。

受け入れる体制としましては、制度面で武雄市の観光誘客に対する対策の助成金でありますとか、コンベンションの関係の助成制度等を御準備させていただきまして、それぞれ延べ宿泊数が30泊、50泊を超える場合についての助成制度を設けております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

そういう助成制度がいろいろ設けてあるというのはわかります。助成制度を設けているのはわかりますけれども、現実問題として佐賀県のスポーツコミッションが前面に立って県内の合宿誘致を売り込んでいくという流れで、それを各市町におろしていくのはもちろんわか

るんですよ。武雄市としてその助成制度を準備していますというのはわかるんですけども、実際、具体的に動いていかんぎんと何も取れんと思うとですよ。だからこそ、先ほどのスポーツ担当の部署が教育委員会にこのままあり続けるのは、なかなか厳しいなと思うわけです。だからこそ、それをどうしても移せというわけではなく、ほかの企画課だったり観光課だったりの連携をもっと密にして、どんどんどんどん積極的にアプローチできればそれはそれで非常にいいことなんですけど、ぜひよそに負けんように武雄頑張っしてほしいなというのがあるわけです。

ただし、ここからなんですけれども、武雄市もその合宿誘致といいましても施設はさっきのBMXでストライダーを考えているというところでも、恐らく最終的にはここでネックになってくるんじゃないかなと思うわけですよ。ただ、さっきの市長の答弁とすれば若干まだ余裕が、猶予があるのかなと感じているところではありますけど、施設規模だったり今回武雄市でも、武雄市の施設も老朽化が目立っておりますのでいろいろと声があります。既存施設でできることって合宿誘致ができることってなれば非常に少ないなと思うわけですよ。

今回武雄市もアセットマネジメント計画による整備を考えているということですけど、アセットマネジメント、実際いつ計画としてでき上がりますか。答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

アセットマネジメントにつきましては、今年度中に基本方針を定めるということになります。そしてそれに基づきまして、各施設を所有します所管課のほうで個別計画を29年度以降策定するというスケジュールになっております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

本年度中に計画を策定して具体的には来年度、再来年度、何年後になるのか。武雄市としてですよ、今の既存の施設がしっかりと条件を満たしていればいいですよ。条件を満たしていればいいですけど満たしていないからこそ動きがとりにくいというのもあります。

ただし今回、2020年の東京オリンピックが控えているということもあります。さらにはその2年後ですかね、佐賀国体は。2年後ですよ。そのさらに2年後に国体が控えている。今武雄市のスポーツ施設に手ば入れんぎんた、もういよいよですね、何もできんとやなかかねという危機感を募らせるばかりなんですよ。

今回、他市ととにかく遅れをとっていきのうがもう目に見えているので、今回どうしてもこの質問をさせてもらえようと思ったわけなんですけど、ちょっと事例を紹介します。先日武雄に来ていただきました元Jリーガーの望月さん、幸野さん。幸野さん元Jリーガーじゃないの

か。F C東京やけん、やっぱり元Jリーガーですね。この二人が講演に来ていただきました。縁あって私もこのお二人と食事をさせてもらって、彼らのやっている施設を見に行かせていただきました。千葉県の市川市の事例ですけど、これがアーセナルサッカースクールといいまして、千葉縣市川市に設置されている施設なんですけど、これがクラブハウスです。アーセナルといえばわかりますかね、セリアAになりますかね。海外のクラブの看板を背負った地域のサッカースクールになるわけですけど、これが人工芝のサッカーコートになりまして実際に今は、これはプレーされているところです。サッカースクールもやられて大会も実施をすると。

これは実際、この土地自体は市川市の所有地らしいです。それを無償で借用して、開発は自分たちで、民間の資金を投入してやっているところです。民間でやっているから非常にコストをかけずに極力安い手法でやられていますけど、それでも物すごく効果が上がっていると。周知の無償貸与による民間活用の大きな事例かなと思うわけです。

その現地の真横に今度こういう・・・今開発中の土地がありました。上空からの写真になりますけど、これが今の既存の使っている所有地です。ここで実績が上がっているものだから、ちょっとここは民地なのであれですけど、今市川市が今度ここを開発に取り組んでいると。今度はこちらでテニスコートが何面できるとかっておっしゃっていましたがけれども、十何面やって今後また一つの拠点としてやっていくということでもあります。

ここで質問なんですけど、武雄市も同じようにこういう残土処分場的な土地があります。その開発の方向性として、同様の考えを持つことはできんかなと。そういう流れをつくるためにも、先ほどのスポーツ課が市長部局にあって企画的な立ち位置でアクションが起こせればいいんじゃないかという意味合いで私は質問をしたわけですけど、それは今考えていないという答弁でしたけど、プロジェクトチームをつくっても武雄市はこれからスポーツ振興の実際のアクションを起こしていく。またはその民間とのパイプ役にもなっていく。また、もちろん民間と連携しながらというようなところで、もうアクションを起こさないと、アセットマネジメント計画をやって計画ができ上がりました、それでじゃあ実施やっていきます、計画を実行していきますってなったときにはもう東京オリンピックも終わっちゃうはずですね。国体も目の前にして、もう武雄はどがんもされんて。だから結局よそに全部皆さんとられてしまうよというような流れが非常に危惧されるわけですので、ぜひともここは腰を上げていただきたいと思うわけですが、これについて答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先ほどの市川のようなそういった整備手法も私はありだというふうに思っています。私も当日、幸野さん、望月さんの講演会を聞かせていただきまして、なるほどというふうに感じ

ました。

確か、先般の議会で朝長議員さんだったと思うんですけども岩手県の紫波町の話をして、そこも総合体育館があるのに加えてバレーボール専用体育館をつくったというふうに話題になっているというふうに聞いています。それもやり方は、公の土地に民間がそれこそ銀行から融資を受けて、そして自分たちで建てたと。いわゆるそこをアピールするというような仕組みをちゃんとつくっていたんだと思うんですが、やはりこういうやり方、官と民が一体でやるというやり方は、私はこれから十分考えられるやり方だと思っています。

先ほどの市川の例も私も話を聞くと上物ですよ。やはり融資を借りてまさにリスクを背負ってつくられたと。ただそれでも今、十分ペイができていようなビジネスモデルをつくられているということです。やっぱりこれは相手があつての話ですので、私は整備手法としては十分ありですし、そういった官民一体のやり方で進めていくというところは並行して考えていきたい。相手方がある話ですので、ぜひこのあたりは上田議員さんにもですね、どういったスポーツがいいのかとかですね、そういったことも含めてアドバイスをいただきたいですし、庁内でもここはやり方を、スポーツ担当を中心にちょっと調べて動いてみます。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひお願いします。本当に時間がないんですよ。4年後の東京オリンピック、6年後国体ですかね。とにかくもう今アクションを起こしてももう遅かぐらいですもんね。

ですので、ぜひそのプロジェクトチームの考えをお願いしたいと思います。どういう答弁になるかなと思っておりましたのでいろいろ用意していました。もっと輝くスター戦略の中にも、武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略、平成31年度までの期間でありますけど、この中にもスポーツ大会等の誘致等々情報発信、魅力向上、地域の活性化につなげるという目標値1,800人。これは高いか低いかよくわかりませんが、これも実際に挙がっております。

さらには武雄市の総合計画、10年後の武雄の未来を描くということで2007年に策定をされている総合計画ですけど、ここにも4番の歴史と文化と地域が育む心豊かなまちということでありますけど、主な事業の中には生涯学習スポーツ、文化施設の充実というようなところがあります。ですので、ぜひとも考えてもらいたい。

さらには、今回武雄青年会議所50周年を迎えることになりました。その記念提言として創立50周年記念提言、6つの変革プロジェクトということでこれは市長も行かれましたよね。6つの提言、さらにこの6つの提言の中に定住人口増加へ国際交流、地域文化、歴史の継承、教育環境の整備、地域間連携、それに最後6番目にスポーツ振興と。スポーツの力による地域活性化で、東京オリンピックの開催に向けということである書いてあります。ですので、武雄市も音頭を取っていけば、民間の若手ももちろんここで同じような思いを持っていると

ということです、ぜひ実現に向けてアクションを起こしていただきたいと思っております。

この写真、御存じの方はいらっしゃると思います。今回古賀俊太郎さんという方なんですけど、オランダの1部リーグ、ズヴォレとプロ契約を結ばれております。17歳で中学卒業後に単身で行かれて、教育リーグ的な位置にまず行って17歳時にその話になった時点で、18歳の誕生日が来ないことにはプロ契約ができないというルールがあるらしくて、18歳の誕生日を待ってプロ契約を結ばれております。18歳です。4年後22歳です。何で彼を紹介したかということ、彼のおじいちゃんもお父さんも武雄の方だからです。だからこういう武雄にルーツがある方が世界を相手に戦うステージにしっかりいるわけですので、ぜひこういうことで頑張っていきたいなど。武雄市のできることをやっていこうよということで今回、質問を上げさせていただいたわけでございます。

先ほどの市長の答弁にもありましたように、今回いろいろ事例を調べておりました。仙台のゼビオアリーナ仙台というのも、これも民地の上に民間でやられています。民間で上物を建てるというながらも、仙台市広域集客型産業立地促進助成金の採択として第1号になったということです。その土地も市と20年間の定期借地権契約。民設の共営型多目的アリーナとしてスタートされているそうです。スマート・ベニューという考え方があるわけで、その研究が必要じゃないかなと思うわけですが、スマート・ベニューって何やということで、一応記載しています。コンパクトシティの中核となり得るような多機能、複合の交流施設の考え方ということで、遅れをとることなくプロジェクトチームを結成して実現をしてもらいたいものであります。

もっと言うと、これは内閣府の資料になります。ホストタウンの推進ということで、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてということで、内閣府の資料になるわけですが、ホストタウンの事業がおおむねこういうイメージです。字が小さいから多分見える方、見えない方いらっしゃるかもわかりませんが、このホストタウンに登録されているのが全国の自治体で多数あります。佐賀県は今佐賀県だけが代表して登録しているというような格好です。オランダだったり、フィンランドだったかな、やっています。そこをおおむね佐賀県に、その選手たちを取り込んでやっていくということで地方財政措置の概要もしっかりメニューとして用意をされておりますので、これはよく見ると締め切りがあったとですよ。28年の1月に第1次がもう締め切られています。6月に第2次が締め切られています。今もうホストタウンに登録されている自治体が県もあれば市もあり、県があつて市がずっと追従して登録をされているようなこともありますので、佐賀県はまだ残念ながら佐賀県だけでしたので。長崎は長崎県が登録してほかの市がずらっと入っていたりしています。これの第3次が10月末に締め切り等々もありますので、ぜひこれも武雄市として考えていろいろな方面でやれば極力コストをかけずに武雄のためになるメニューがあるわけですので、ぜひとも先ほど市長の答弁の中にもありましたように、こういうこともひっくるめてス

スポーツ振興に取り組んでいただきたいと、市長の考えを改めてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

2020年に東京オリンピック、そして佐賀国体が平成35年ですかね、二千ちょっと何年かすぐ計算できないんですけども、というふうにあります。

こういった仕組みもそうですし、やはり私としては先ほどの、まさに民間と行政が連携して財政負担も少なく、なおかつ民間もビジネスとして回っていくようなそういった仕組み、こちらについてとにかく我々も早急に調査をして可能性を探っていきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

もうまさにおっしゃるとおりなんですよね。有名なところでいけばPFI方式だったりとかBOTとか、ちょっと全部説明すると面倒なので説明は省きますけど、BOT、DBOって、公設民営だったり、民設公営だったり、民設共営だったり、民設民営、いろんなやり方があります。そこにメニューもたくさんありますので、ぜひともプロジェクトチームを立ち上げてもらって検討をしていただき、武雄のスポーツ振興に発展、つなげてさらにそこから武雄の観光、定住人口の増加、アスリートタウンの道に行けるようお願いまして、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、10番上田議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、10分程度休憩をいたします。

休	憩	9時55分
再	開	10時04分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、24番谷口議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

（全般モニター使用）許可をいただきましたので、24番谷口、ただいまより質問をさせていただきます。

私は今回の質問は教育・文化行政の問題、それからまた観光と産業の振興の2点とそれに関連する道路行政についてお尋ねをいたしたいと思います。

図書館にまいりまして今ですね、だんな様の買いもの控えといいますか、いわゆる武雄の蘭学のいろんな明治の維新、そしてまた日本の国運を、いわゆる国をつくりかえるための大きな運動が、佐賀の乱の問題とかいろいろ問題がありましたけれども、その中で武雄が持ついわゆる歴史資料の中で蘭学に関する軍事、教育、文化それから医学、医術、そういう問題について本当に武雄が先進的な役割を果たしてきたということの資料展があったわけでございます。その歴史資料の展覧会が実は本当に蘭学館、いわゆる図書館・歴史資料館の片隅で行われ、展示をされたと。

先ほどの質問の中に非常にスポーツの振興等について、全国的に活躍する人があるのに何でもっとスポーツ施設を充実して全国に武雄市そのものを一つ受けとめていただけるかということは今、上田議員の質問の中で感じておりまして、私はスポーツ、体育という面と、もう一つの両面でありますこの一つの歴史と文化について、私はこんなことを中心にきょうは質問を続けていきたいと思っております。

まず第一にですね、今度の鍋島侯の武雄藩の日本の佐賀県の文化、芸術、医術、そういう問題についていろんな取り組みをしてきた、そういうふうな政治を行われた武雄藩のことを、いわゆる武雄の先人たちのことについて、まずお尋ねをしていきたいと思っております。

まず第一はですね、今の図書館・歴史資料館というのは、現状に本当に見に来た人たちが絶対その何名かが県内外から来た見学者とお話いたしましたけれども、本当に常設をこういうものがあればね、私たちは何度も見に来るのにというような気持ちで語られた方も何人もございました。しかし、その中で私もいろいろとお話をいたしましたのでございますけれども、やはりそういったような先人のそういうふうな業績、そしてまたそれが現在に生かされてることについて、なぜ今の図書館・歴史資料館の、もっといわば昔のそういう問題にきちんとできないかという問題を含めてお尋ねします。

現在の歴史資料館、それからまた今度の蘭学の展示会についてどういうふうな考えをされているのか、その点をまずはお尋ねしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

おはようございます。議員さんからは常設の展示室をつくったらどうかと、こういうふうな御指摘だというふうに考えますが、これにつきましては現在、武雄市の歴史資料館におきましては武雄鍋島家資料、あるいは考古資料等、こういうものが3万点以上保管をしているというところでございます。これらをやはり市民の方、あるいは来館者の方に見ていただくと、こういうことから資料への負担を勘案しつつテーマを決めながら、年4回程度の企画展を開催しているところでございます。これについては現在も、先ほど議員さんのほうから御案内があったような状況でございます。そうしたことから、現状では新たにそうした展示施

設を整備するという事は考えておりません。蘭学企画展示室の企画展で公開に対応していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、実はそういうふうな常設展示等は考えていないということでの答弁でございましたけれども現実問題として、これ単なる学習だけの、いわゆるそういう勉強とか学問的なことの研究だけじゃないんですよ。いわゆる武雄に来た人は、やっぱり歴史資料館を見たいという人がいっぱいいらっしゃるわけですよ。

せんだって韓国からお客さんが見えました。私に電話がかかりました。それは何かというと、実は武雄の歴史的なことについて図書館・資料館を見たいと。どこで電話かけてられますかと聞いたら長崎からかけていると。武雄に行ったら歴史資料館とか図書館のことについては谷口さんに話してもらったら何とか案内してもらえますよということで、バスを、韓国から来た 42 名のお客さんがそういうことで通訳の人から電話がかかってきたと。私もせっかくお見えになるならば館長さんがいらっしゃれば幸いだけでも私もハングル、韓国語にはそう強くないものですから、特にそれをおたずねすると残念ながらいらっしゃらないと。ところが幸い館長がその日はいらしたから対応できるなと思えました。

そのときに一緒に見たかったのは、歴史的に大きな大楠、武雄にある大楠でございますけれども、そういうふうないわば自然のものを大事にして例えば何千年もの間、大事に大事に育てて、育ててという表現は適切ではないかも知れませんが大事にしてきた。そういう歴史的な武雄の大楠、若木までは行けませんのでまずは武雄神社の大楠も非常に歴史的な価値がある私は大楠だと思います。それを見ていただくということで、そのとき大雨でしたので、大雨の中を一緒になって私もずぶ濡れになって御案内をさせていただきました。ちょうど参議院の選挙の最中でしたので十分に時間はとれませんでしたけれども、そういうことでそれが終わった後、武雄の図書館・歴史資料館を見て、そして博多経由でお帰りになったということでございます。

そういったように、先ほど話した中にありましたように韓国のお客さん非常に多うございます。そういう中で武雄の歴史、そういう歴史的な木にしても歴史的な、いわゆる資料にしても大事にしているんですね、図書館のこと。

しかももう一つは、わーっと大きな 2,000 年、3,000 年もするような大楠といますかね、そういうふうなものを大事にする武雄市というものを見ていただいたということで私は非常にうれしくて、そして私も武雄の図書館に行って、本当に何と申しますか、物産というとなんですけれども四十何人もお土産を何度もできませんので、岸川飴というんですかね、あの飴を 1 袋ずつ差し上げて、そして武雄のお土産にして。

何よりもしかし大楠を見る。それからそこで武雄の人たちがその大楠を大事にすると同時に武雄神社のお参りの仕方、作法まで私アドバイスをしたのを今思い浮かべるわけですが、そういうふうな海外から来た方が、鍋島さんのあれは見れませんでしたけれども展示会だけは見ましたけれども、そういう状態の中で非常に武雄市の図書館についても関心があるし同時に武雄の歴史・文化というものについても単なるいわゆる芸術とか文化という立場以上に歴史的なものについても大事にしてかにかいかなと。しからばですね、せっかくであればそういうふうな歴史文化の、そういうものについてきちっと触れる、説明できる学芸員さんの問題とかそういうことも大事じゃなからうかと思えますけれども、今のお話だと常設展示について考えはありませんというお考えですけれども、教育委員会としてはそれは大体図書館・歴史資料館はどここの管轄なんですか。それとも市長にお尋ねしなきゃいかんのですかね、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

ただいまの御質問でございますけれども、図書館及び歴史資料館については複合施設ということで設置をしておるわけございまして、これも所管については教育委員会ということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

教育長にお尋ねをいたしますけれども、例えば、今の歴史的な一つの例としてだんな様の買ひもの控えではございませんけれども、蘭学資料等については単に武雄だけの財産ではないわけですよ。日本の、国の財産なんですよ、あれは。例えばあれらの資料等も実は国立の博物館でも移動して展示をしてもらったこともあります。私も行きましたね。そういう苦勞を感じておりまして、そしてまた実際問題として、あれは蘭学館と通常私たちいいます。あれをつくる時に、わざわざ資料等もオランダから取り入れて、本当に日本中であれだけものが揃っているところはなにもないわけですよ。非常に国家的財産ですもんね。それをみんなで認められるようなそういう施設をつくりながらですね、例えば今は貸しビデオは悪いとはいいませんよ。それはそれとして市民の方には歓迎されているかわかりませんが、それはほかの場所でもできるわけですよビデオは。

だから、やはりせっかくつくった蘭学館というのはですね、わざわざオランダの方がお見えになったり、また外側のれんがそのものはオランダ柄のれんがじゃないですか。そこまで一生懸命つくって、今は例えばスポーツ施設をつくれということに対して今は予算がないとか、あるいはほかのことでということとまた意味合いがちょっと違った形でして、今まであ

るものをなぜビデオ館にしたかというので、アンケートを取ったらビデオの希望者が多かったからしましたというのが前の状況だったんですが。もう契約の年数が間もなくきます。5年間ということだったと思いますが、5年たったらあの場所を返してもらって、そして本当のあれをつくったときにみんなが願ってきた蘭学館といたらおかしいですけども、そういう歴史資料館をきちっとぜひしてほしいと思うがその点についてはどうですか。

教育長がお答えしにければ市長からお答えいただきたいと思いますが、どうでしょう。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

3点申し上げたいと思います。

1つは、図書館リニューアルに際して事前にいろいろな調査も行いまして、蘭学館を見学に見える方が非常に少なかったというのは間違いのない事実でございます。これは私どもの見せ方であったり、活用の仕方というものの足りない点もあったかもわかりません。しかしこれは間違いのない事実としてあったわけでありまして。その中で新しい図書館像を求めて、これまでにない新しい図書館像を新たに求めていくときに、全体の計画の中で今の状態にしたということでございます。

2つ目は、その後、洋学資料につきましては重要文化財の指定があったわけでありまして、そういう思いが強くなられているかと思いますが、そのために年4回程度の企画展をしっかりと準備して、そしてその時期においては十分納得できる資料の展示をしているということでございます。

3つ目は、歴史の価値というのは当然大事なわけでありましてけれども、前回いつか申したと思いますけれどもやはり先進的なことをしたという、そういう先進性を私たちは学んで全国に先駆けた試み、営みというのをやっていくということで答えているという3点を申し上げます。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

教育長の答弁でおっしゃることは私もよくわかります。

しかしこれはですね、最初あそこを蘭学館を移したときに、実は今度の展示館を見に行ったときに一番奥のほうの展示室のところに解説するビデオ、すばらしい内容のビデオでした。そういうのをですね、一番奥の部屋の片隅のほうにといたら表現おかしいですけど最後は片隅しかないわけですけども。その一番奥まったところに展示してビデオが放映された。ボタンを押せば見られるような状況に。もう2、3日前にそういう展示会は終わりました。

今度はどこにといたらまた、いわゆるそういう資料室の中に入ってしまうような状況に

なるわけですよ。あれだけです、世界を動かす資料なんです。あれね、御存じのように。教育長も歴史的な価値そういうものについては、あれ以外ないというぐらいなんです。すばらしいものだと。

そんならね、武雄だけの財産じゃないわけですよ。しかも展示できるようなそういう施設をつくってですよ。一つの例ですけど、今まではボタンを押せば例えば2カ所あったですね、そういうふうな武雄の文化・歴史について、解説のビデオまで設置されたビデオ館でもあったわけです。それはいわゆる恋愛小説のビデオ館じゃないわけですよ。音楽だけの問題じゃないわけですよ。そういう歴史とか、武雄の歴史とか文化とかそういうものをボタン一つで見れるような展示室があったわけですよ。それがもう既にないということですね。(発言する者あり)

ところがですね、ちょっと問題があるんですけども、それでは今度は仮に今の貸しビデオルームをほかに移したとしたときに、今まで展示ができる状態、ボタンを押せば武雄の歴史とか文化とかそういうものがビデオで自動的に見れるような施設があったんですよ。それはどうなっているんですか。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

旧蘭学館の部分でございますけれども、これについては現在レンタルコーナーというんですかね、こういう形で活用をさせていただいております。

○議長（杉原豊喜君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

私が聞いているのはですね、それはわかっているんですよ現実で。ところがあそこに武雄の歴史とか文化とかを紹介するボタンを押せばわかるようにあったんですよ、施設が2つ。あれはどうなっていますか。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

ただいまの御質問の部分でございますけれども、これについては当時リニューアル時に撤去をさせていただいたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

(発言する者あり) 静かにしてください。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

私がお尋ねしたのはね、撤去したはいいですよ。壊したんじゃないですか。もう使えないように壊してしまったんじゃないですか。撤去したのであればね、展示するときに持ってきてどっかの場所に置いて2カ所で展示できますよ。どうなんですか。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

繰り返しになりますけれども、リニューアル時に撤去をさせていただいたということで、現在については保管はないということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

撤去するのはいいですよ。壊してしまって、もうあそこに持っていっても使えない状態になっているのが事実じゃないですか。みんなが一生懸命頑張った素晴らしい歴史資料館、これをつくるためには実は裏話があるんですよ。

あれをつくるためには武雄だけの予算じゃ大変だということで、佐賀県が県立の歴史資料館をつくるというときに武雄市民が一丸となって周辺の市町村まで巻き込んで武雄に県立の歴史資料館、それをつくろうという運動をやって、バス10台を動員して県議会を占領するような運動をして武雄につくるのが決まったわけですよ。そのために、まさに佐賀の乱じゃないですけども佐賀市以下、県の東部のほうが県議会に対して物すごく反対して審議拒否までやった。それに対して武雄市は市民がみんなやろうと言って運動をしようということで、実はバスを県議会の道路横過を占領して、その県議会の審議のときにまさに市民あげて武雄の歴史だけではない、佐賀県に大事なものをつくるためのそういう施設にしてほしいと。佐賀県の歴史をつくっているのは武雄だという気持ちで資料館をつくる運動、あの運動を展開したわけですよ本当に。その運動を展開する中で本当にこれはあれですけど、亡くなられた御方、今の議員さんのお父さんたちも朝4時に起こしに行って車に乗ってもらって陳情に行くとかですね、そういう形で徹底的な運動を展開してやっと実現したのがあの歴史資料館だったわけです。ところが歴史資料館を佐賀にするためにはどうしても佐賀にもつくらなきゃいかんという経過はあって、そしてそれじゃあ佐賀にそれをつくると。その代わり武雄にもつくるけんね、その代わりまずは武雄市には県立宇宙科学館をつくりましょうということになってとりあえずその宇宙科学館をつくって、今の県立宇宙科学館は蘭学館をつくるための一つであり、その代わり武雄が図書館・歴史資料館をつくるときには何らかの形で応援をさせ

てもらおうと。

しかし歴史資料館は佐賀の本藩と武雄の争いという形になってしまっただけで、はいかんからということで、佐賀に佐賀城本丸歴史資料館はできていますけれども、その代わり宇宙科学館ができた。そして、武雄市が蘭学館をつくる時には応分の応援をしたいということで現在の図書館・歴史資料館はできているわけです。そういうふうな背景がずっと私たちはですね、私はもう何十年かこの仕事をやらせてもらっていますのできちんと私の頭の中に入っています。そういうふうに市民の命がけの陳情運動でもったああいうものができたという形が、その運動に参加しなかった人はあんまり野次らんでください。そういう状況の中で私たちはやってきた、その歴史資料館なんです。私は現在ツタヤさん、あるいはCCCと連携してやっているところについてどうこう申し上げる気持ちはございません。

私がいうのは契約年数がもう来るじゃないですか。そのときにあの部分だけをほかの部分に何とか変える方法があれば、あの蘭学館というのはオランダからまでタイルを買ってわざわざ。だから蘭学館というんです。そういうふうな市民のそういう気持ちの中でできたものをもういっぺん取り戻してくださいよ。表現はおかしいですけど。それは、市長どう思いますか。その点についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほど申しましたように、大きな新しい図書館像を求めての改革の中での今のお話であります。これは現在も、そして開設以来、市内外のたくさんの人に利用して新しい空間を味わっていただいていると、大きな成果だというふうに思っております。もちろん10年経過した図書館のことを振り返っての改革であったわけでありまして、ポイントポイントにおきましては常に議会の皆様の御理解をいただいて進めてきたというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

先ほどの御質問の中でも私のほうからは当時の機器については保管はしてない旨お答えしたところでございますけれども、これについて企画展等で整備した、そういうものを含めたソフトについてはすべて保有をしているということでございます。

これについて、DVDに落とした部分については貸し出しも現在できるようにしておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

私が申し上げているのは展示物を自動的にですよ、例えば常設じゃないですか現状は。歴史資料館の部屋は常設じゃないですよ、形としては。いろんな展示会をしてみたり、あるいは企画展をしてみたりしていろいろ御苦労いただいています。常設じゃないですから、例えばいつも行ってボタンを押して見るっていうことができんわけです現状は。そうでしょう。あなた図書館に行ってそういう資料を見たいときにボタンを押して見れますか。はっきり答えて。壊したら壊したって言っていいじゃないですか。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

繰り返しになりますけれども先ほど申し上げましたように、上映の機器については撤去したということでございます。ただし、企画展等で整備したそういうソフトについては保管をしていると。そういうものについて、DVDにも落とし込んでおりますのでそういうものを見たいということであれば貸し出しもできるようにしておるということで御答弁をさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

お尋ねしたいことがいっぱいあるのに、このことだけでとられちゃちょっと残念ですけども。

実はちょっと調査が適切じゃないような気がして、私が調査した結果というのはおかしいですけど聞いたのは、じゃあそういうふうに展示物を記録したものを見るためには展示会、いわゆる今資料展とかこの間までやりましたね、例えば企画展等をつくる時はそれだけの機器は別なんですけれども、あの蘭学館に行って見た人がみんなボタンを押したら武雄はこういう動きがあったんだとか、お殿様はこういうふうなんだっていうふうな感じのビデオが自動的に、行った先はめいめい皆見えるようになっていたんですよ。あなたどんな引き継ぎをされているんですか、それについては。

現実には、実は図書館の関係する人に聞いたら、やはり壊されてその残った分が仮にあったにしても全然使えませんよということでしたよ、専門的には。私は質問するときはそこまで調査してからしか質問しませんよ。市長、どう思いますか、その点。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

繰り返しになりますけれども、上映機器については撤去したということは間違いないということでお答えをしているところでございます。

それからその中のソフトの部分、映像関係でございますけどそういうものについてはDVDに落とし込んでおりますのでこれについては貸し出しができると、こういうふうにしていくということで御答弁をさせていただいております。

○議長（杉原豊喜君）

谷口議員、同じ質問に対して同じ答弁で3回以上答弁されておりますので、視点を変えて質問をお願いします。24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

質問が不慣れなものですから申し訳ない。

私が言うのは、機材を外しているけれども土台から壊してあるけんですね。あそこに持っていったって映らんわけですよ。そういうことは承知でしょう。

私質問するときにはやはり現場主義ですから現場に行って確認をし、お尋ねをした上でしか質問しません。

しかしこれはいいですよ。ただ、ほったらかしてあるということをおなたたちに言っているわけじゃないですよ。できればそういう形の中で、蘭学館だけは市民がその願いでつくった施設ですから。そういうビデオの放映する場所は実はほかにもやろうと思ったらできるわけですよ。あそこじゃなくたって、販売が。あそこでなきやいかんという理由はどこにあるんですかね。それは契約をそのときしているわけですよ。そういう事業ですけども。

今度問題になってくるのは、次に移りますけれども、議長の御指摘ですからあえてそれを5回目はしません。ですけども大事なのは例えば、こども図書館の問題に移りましょうかね。こども図書館の中で実はですよ、結局またツタヤが関連して出てくるような形になっていきますね。それはそれでツタヤの持つ書籍とかそういうものに対してノウハウをそれはそれですばらしいものだと思いますけども、私が言うのは例えばこども図書館の場合ちょっと気になるのは、教育長に先にお尋ねします、すみません。このような教育の場所で私たちは、例えば新聞読んでいたって御飯食べながら読んだら家内から怒られますもんね。読まないで食べるのは食べてくださいと言われます。子どもたちにも物を飲みながら、物を食べながら、本を読む読書の指導をしているんですか、学校では。どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほど申していますように食べながらじゃないですけども、実際に武雄市図書館ができてから、その後いろんな図書館も県立図書館もそうですけれども飲み物は持込可能とかそういう形でだんだん変わってきております。食べながら読むなんていうことは普通は当然子どもたちに指導するわけじゃないわけですけども。

そこは、例えば家で大人が本を読むときに、どういう読み方をしているかというときにな

るとやっぱり飲み物を横に置いたりというのは、今の生活空間としてはありえるかなというふうに思っております。そういう面でいろんな新しい今の武雄図書館の仕組みというのと、現在の大人の生活のパターンというのが近いのかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口攝久議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

私が申し上げたかったのは例えば、私たちは2つの理由でものを食べたり飲んだりしながら本を読んじゃいかんと言われていました。本を汚したり粗末にする。もう一つはせっかくの飲み物せっかくの食べ物はおいしくいただく。つくった人のことすごく感謝しながらいただく、そういうふうないわゆる指導というとおかしいですけどもそういう気持ちで勉強するときに、あるいは本を読んだりするときには物を食べたりなんかしちゃいかんと言うんですけど、図書館でみんな大人の人がそうしていると、あそこに行った子どもはやっぱりするわけですよ、結果的に。そういう点はどうなんですかね。図書館は教育の場所ではないわけですか。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

現在の図書館の中では議員がおっしゃられましたように飲み物、ちょっとした軽食ですね。こういうものをとりながら本を読んでいただくと、こういうことも可能な運営をしているところでございます。

これについては新たな市民価値も含めて時代のニーズ、あるいは市民の方のニーズにこたえたものということで新しい市民価値の創造であったと、こういうことで現在運営を続けているというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

物を食べながら本を読んだり飲み物を飲みながら勉強したりするのは新しい時代のニーズですか。もうこれ以上このことは言いたくありませんよ。

例えば私が言うのは、今度こども図書館の問題に移るか、質問がね。言いたいんですけども。こども図書館が、実は私が千円図書館だということを飲み物を提供する場所をつくったときに申し上げました、議会で。千円図書館って侮辱するような。ツタヤは一生懸命しているのにと、こういうふうな前の市長の答弁であったわけですよ。別にツタヤがそういうふうな、いかんとかっていう意味じゃないですよ。私が言った1,000円は1,000円しか価値のない図書館だということを言っているわけじゃないんですよ。1,000円持っていかと子ども

もを図書館にやれんという親の嘆きの話をしたわけですよ。だから今、例えば新しいニーズとかそういう価値観の問題とかわかりませんよ。でも私たちは少なくとも本を読むときぐらいはきちんと本を読もうと、飲みたいときは横に行って飲もうと、そして本を汚さんようにみんなで大事に読んでいこうと、こういう気持ちで私たちはおりました。

集中力の問題もあります。ながら族とあって、何々しながらテレビ見ながら何をするとか、ながら族っていうのがありますね。

ですけれども今度、私こども図書館ができたときに、もし2つの理由があります。こども図書館の中だけは、例えばああいうふうに現状のように物を食べながら飲みながらできるような食べ物をつくる場所は、こども図書館だけにはつくってほしくないわけですよ。なぜかという、そんなのは今の図書館とこども図書館の間にそういう軽食できるような、あるいはお茶を飲めるような通路はありますからそこにつくるようないろんな作業をして、本を読みながら物を食べるとか飲み物を飲むとかそういうのが通常化しつつある。

もう一つは、実は今でも子どもたちが飲みながら食べながらお話ししながら本を読みよる。そういう状況を見たときに、実は黙って、家からお小遣い持ってきてない、お小遣いを持っていない子どもたちは、じーっと飲み食べする人を見ているんですよ。その子どもたちの気持ちを考えたときに親がですよ、図書館に行くなって言ってるんじゃないとお金を持たず。1,000円ないと行けんわけですから今は。何人かでおるならば。だから千円図書館といったら前の市長が千円図書館と侮辱したと私に食ってかかりましたけど、侮辱じゃないんですよ。1,000円もお金を持たしてやらんと子どもを図書館に行けんような悲しい親の気持ちをわかってくださいということを私は申し上げたんですよ。

今度の場合もこども図書館いいですよつくりましょう。みんなですばらしいものをつくってほしいと思いますし、私も期待しています。しかし、問題はできるなら今のうちに言っておかないと、できてから言ったらいけませんので。食べ物を飲んだり食べたりする場所は子どもたちが勉強する、あるいは図書館の中にはつくらないでほしいと。つくるならば今の図書館に喫茶室があるようにそれを途中ででもそれをつくるようにね。そういう一息入れる場所をつくっていいじゃないですか。それくらいの気持ちでやってほしいと思いますが市長どうですか、その点。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

非常に誤解を生みやすいと思うんです。（笑い声）例えば、その千円図書館っていかにも子どもたちが1,000円持って行って飲み食いしてどうこうという印象を受けてしまうんですよ。実際行かれてそういう子どもたちとかいけませんよね実際に……（「そうそう」と呼ぶ者あり）自分達でこう行って。ですから、非常にあまりにも残念にその辺は思えるんです。

次第にそういう交流の場から学習の場、教養を深める場という、ああいう流れのところでしっかりと図書館の機能を果たしているわけであります。

そして、あそこのスタバのコーナーでもありますけれども、一番はやっぱり交流の場になっているということじゃないかと思うんですね。こども図書館のこれまでの構想の中にも、子どもさんだけでなく親さんの交流という場面もあるわけでありまして、いろんな機能を期待しているわけであります。そういうことで現代の図書館、そしてこども図書館の構想をさらに深めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

教育長、私今ちょっと残念なのは飲み食いするのがすべて悪い言い方をしているわけではないんですよ。こういうの結構ですよ、確かに。問題は子どもが飲み物代ぐらい持っていかんと図書館に行けんような雰囲気にははいかんということを言っているわけですよ。現実にはそうなんですよ。そういうふうな状況の中で実際それは例えば、図書館に行くときに親が一緒についていけばいいですよ。だけど実際に自分たちだけで来て勉強している子もいるわけですよ。だけど、それはなんであそこの場所につくらにゃいかんとですか。例えば途中に、こども図書館と大人の図書館の間のそういうところに、そういう喫茶室なりなんなりをつくることは決してないですよ。しかし、現実問題一緒にそこの中ですることについてはやはり親のこと、気持ちを考えてやらないかんし、子どもだってみんな友達が何か飲んで美味しそうにしているところを横目で見ながら一生懸命本を読む。ちらちら見えますよ実際。かわいそうだと思いますね。そういうふうな公共的な施設であれば、例えば執務室の横にそういうのはないですもんね。県の施設でも何でも。ほかの場所にそういうのはあるわけですから。団らんの場所ということとそういうふうに勉強する場所は、そういうものについてははじめっていうのは大事じゃないかと。私はすべての喫茶室とか、あるいはそういう飲み物を飲む場所をつくるなど言っているわけじゃないですから。ほかの場所にそれを回してそのセットをするぐらいすることは許容の範囲じゃないかと、またやってもいいんじゃないかと思えますけど。絶対にそれを一緒につくらにゃいかんという発想については、いかがと私は思います。あえて申し上げておきたいと思えます。

結局私が言いたかったのは、こども図書館の中には談話室とか、あるいは今の子どもだけの読み聞かせの場所とかそういう施設の中にはつくらんで、せつかくならば真ん中にそういうのをつくられたらいいんじゃないですか。そういうようなことをあえて申し上げておきます。その点についてはあえて市長お答えになりませんが、実は前の市長は図書館でもなんでもそれは市長の言うことを盛んに言ってありましたよね。私は、図書館は教育委員会の所管だと思ったら、どうも予算権を持っている市長の権限だとか言って前の市長はおっしゃ

っていましたが今の市長はそうおっしゃる気はないだろうと思いますけども、いずれにしてもあえてお尋ねしたのはそういう意味でした。

○議長（杉原豊喜君）

どうぞ質問を続けてください。

○24番（谷口攝久君）（続）

よろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

はい。（発言する者あり）静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

真面目にやっているよ。何を言うのあなた。静かにしてくださいよ。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。（発言する者あり）

○24番（谷口攝久君）（続）

そこで次の質問に移りますけども、観光産業の振興に移りたいと思います。

それから道路行政まで行きたいと思います。

今、韓国から非常にお客さんが多いということになって、オルレの問題とか観光行政の中で、やはりそういうふうな対象となる地域、世界中の人を相手にするっていてもなかなかないんでしょうけど、例えばそういう問題については観光課としては観光と産業の振興の中で、いわゆる県外、国外のお客さんの受け入れとかそういうものについての取り組みはどういうふうになさっているんですか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員さんの最後の御質問の内容がちょっと聞き取りにくかったのですが、何外というふうにおっしゃったんですかね。韓国とか外国人の対応ということでよろしゅうございますか。

〔24番「はい、はい」〕

特に、先ほどから韓国のことに触れていただいておりますので韓国を含めてでございますけども、おかげさまでインバウンド、外国人の皆さん方も武雄市のほうに訪問していただいております。韓国をとっていいますと、先ほど市長のほうのお話にもありましたように平成27年度の実績を見ますと6,000人を超えております。たくさんの方がお見えいただいております。ちなみに26年度、前年度でございますけども比較すると3,200人程度でございますので1.8倍ぐらいにふえているという状況でございます。

御承知かと思いますが、外国人の対応も含めて駅にあります「たけなび」でありますとか、

それからオルレのコースでありますとかいろんな形で、そしてまた将来的にはといたしますか、新しくできます競輪場のほうもそのような対応を考えておりますので、今後ともそういった形の外国人の対応を、観光客の対応をできるだけ、おもてなしを含めて対応していきたいというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、確かにおっしゃったように一番現在こういうのは、フランスとかドイツよりも韓国のお客さんのほうが一番多いわけですね、現実的に。だからまず隗より始めよじゃないですけども、お隣の方をまずは身近にお招きする。

実は私たちは少年の船、今現在行かないようになってはいますがけれども。実際韓国との交流の中で、実は韓国の政府の機関であるとか海外の研修だと予算もかかります。しかし、韓国の青少年連盟が実はそのこの宿舎も協力してもらいましてですね、1泊100円ぐらいで泊めてもらいました。そういう時代がありました。そして韓国との交流もずっとやってきましたけれども、少年の船協会が解散をしたために現実ではそういうことが実施できなくなったわけです。しかし現実には、実は韓国からもいろんなお客さんが見えになっています。武雄市にも、私が体験したところでも延べ60泊ぐらいはですね、いろいろお世話したことがございました。やはり韓国の方々には本当に義理に厚いんですね。感謝を忘れるなというそういう真心を持った方々が多いです。そういうふうなことの中でいろいろとかえって勉強させられることが多いような気がいたします。問題はどうか迎えるかということでございますので、そこら辺については問題が1つあるんですよ。実はよそからお見えになったときに必ずしも、例えば道を聞かれてもすぐお相手できないですね。フランス語は私無理、ドイツ語もちょっと無理ですけども。例えば韓国はアニョハセヨとかカムサハムニダとかいうことぐらいは言えますけどもなかなか。そういうときに県に電話をしたんですよ、代わって応対してくれるというシステムがあるわけですよ。そういう点のシステムの活用はどういうふうにございますか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えいたします。

この問題につきましては谷口議員さん、議会において再三御質問をいただいておりますので御承知かと思いますが、今御紹介いただいている面につきましては、県の観光連盟によりまして4カ国語の対応でございます。英語、中国語、韓国語、タイ語に対応するわけでございますけれども、これにつきましてはお電話でコールセンターのほうにお電話いただいて、お困りの際についてはそれでやり取りをしていただくという形になります。武雄市としまし

ては、観光のパフレットには韓国語、中国語それぞれ、また英語も用意しております。観光の場所、そういったところについての御質問やお尋ねについてはそのパンフレットで御対応させていただいているところがございます。それから駅のほうでありますとか観光案内所で、マンツーマンで対応させていただくという状況でございます。あとできるだけ看板等につきましても外国語を含めて表示をしているというふうに随時変えているところがございます。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

今説明いただきましたけれども、確かにいわゆる難関的に外国の人に対応できない場合があります。道聞かれてもですね。そういうときに例えばそういう方法があるということだけを、やっぱり市民の方も周知徹底——武雄は結構多いんですよ、よそのお客さんがですね。そういうときやっぱり通っている人はつい声かけられて聞かれるときありますので、私たちはできるだけ対応していますけれども、それでもやっぱり外国語については堪能ではございませんので、問題は、難しいのは例えば「え？」と言って公衆電話からかけるってわけにはいきませんし咄嗟に聞かれたときに。問題は、問い合わせまではいいですけども今の県のシステムでは通話料はかける人が払わにゃいかんというシステムになっておりますね。通話料ぐらいは当然だろう親切にするんだからということもあるかもわかりませんが、現実問題としては外国語で聞かれたときにとりあえず県に取り次ぎますけれども、それだけの通話料は取り次いだ人が払わにゃいかんというシステムのようなのですが、その点についてはどうなんですか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

議員御指摘のとおり今通話料につきましては個人の負担といたしますか、受益者負担になっております。県全体のシステムでございますので、それに準じた形の分で対応させていただいているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

佐賀の例えば県庁は県庁で、電話のシステムまで優遇に電話して照会してあげるぐらいは市民の方に、どうぞ一つ電話料の 10 円か 20 円でしょうか、つなぐということですけども後の話になるとやっぱりその電話に代わって話さないかんですかね。外国の人が持っている携帯電話で話すわけにはいきませんし、そういうときにどなたにもそういうことがあるけん

が県に言うてくださいますとかっていうことがなかなか言えんのですよ。それをわかってくださいよ。

だからそういう場合、例えば武雄市ではどういうふうな場所にいれば通じるかとか、そういうふうなシステムはないんですか。武雄は意外と外国人の人がだんだんふえておられる観光地になりおつとですよ。そういうところではどうなんですか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

現在、このコールセンターの分の制度を御利用いただいているところにつきましては、例えば旅館にお泊まりの方ですね、そういった方がお困りになります。日本の旅館の方とお話をするわけですが、そこでは対応ができない難しいということになりまして、そのときには電話番号がありますのでそのほうに直接かけていただいて、それで2者でお話をさせていただく場合もありますし、こちらのほうの日本人の方と3者でお話をさせていただくというシステムも御利用できます。そういった形で武雄のどこにかけるというのではなく、電話番号を御紹介してそこで直接お話をさせていただくというシステムでございます。そのような形になっています。

○議長（杉原豊喜君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

今テレビの放映があっていると思います。その中で市民の方々は、なるほど、外国の方からそう聞かれたときはこういう取り次いであげることももてなしですから、そういうことだなとって御理解いただいた方たくさんあると思いますけど。結構そういう機会は多いんですよ。ですから今のようなことで対応してもらおうというふうになります。旅館に泊まっていられらっしゃるときはいいんです。道で聞かれたときがなかなか対応できにくい問題がありますけど、そこはそこでいろんな方法を一つ考えて武雄にも本当に、武雄に来れば親切に何でも楽しい場所だったと思いを覚えて帰ってもらえるようにもてなしをしたい。まず、おもてなしの第一はその対応からになりますので、その点については一つ観光課としてもいろんな知恵を出していただきたい、こういうふうに思います。

あと問題点がいくつかありますけれども道路行政の中で、実は今の温泉通りの砂利道の問題とかいろいろございますが、その点については問題としては予算を付けた議案が出るということをお聞きしていますので、いわゆるそれに抵触したらいけませんけども、問題は例えば道路を単に今の武雄の温泉通りにしてもそうですけども、道路を単に今までのように通ればいいのか舗装すればきれいになるということだけでは解決しない問題があるような気がします。

例えば博多のどんたくを見ていまして、実は非常に町中練り歩くとかそういうふうな非常に華やかですね。唐津くんちもそうですし、いろんなただ飾ってあるところに立ち止まって見るだけじゃなくて、まちを練り歩く行事というのがあったときには実際に道路の管理等はどういうふうになさっているかということを知りたいです。

一つの例として申し上げたいのは、武雄の流鏝馬がございます。武雄の流鏝馬は馬場で行事をするわけですが、もう一つは実は上り馬、下り馬という行事がありまして、その行事が下り馬になったとき武雄の温泉通りをダークと走って行くのを手で馬を止めて、楼門のところに行くのを行かせないようにして、八並のほうに行くように手で塞ぐという行事があるんですよ。その行事が現実にはなかなかできにくいと。馬を走らせることはできんわけですよ。昔からの伝統的な行事があるんですけども。行列は行きますよ、戻り馬下り馬といいまして。流鏝馬が終わった後、温泉通り通って行くんですけど通るときには実は今言いましたように馬を走っていったのを手で止めて、そして方向を変えさせるというそんな行事があるわけですよ。それだけがまだ実現できない。なぜかという、実は道路を綺麗にしてもらった方がいいんですよ、ですけども真ん中にマンホールの蓋があったみたいでして馬が滑ったから走れんのですよ。マンホールの位置をちょっとずらせば、実は今までの八百何十年かたつ行事がそれは昔のように復元できるわけですよ。そういうところについては、そういうふうな道路は市が管理すると思うんですけどもそういう点についてはどうなんですか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

今議員さんの御指摘の道路のマンホールとかの問題でございますが、温泉通りはもともと県道でございまして移管されて現在市道になっております。あそこの道路の下には上水道管、下水道管等が配置されて、汚水処理とか上水の施設も入っていますので、マンホールの位置等については変更が大変難しいようございます。そういう状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

24番谷口攝久議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

御答弁ですけども、確かに私はマンホールの下がどうなっているかは開けてみたわけじゃないですからわかりませんが私が申し上げているのは、例えば伝統的な行事を再現して流鏝馬を武雄神社のところの参道まで見に来れない人も戻り馬、下り馬っていうんですね、あそのせめぎ合いも実は歴史的に八百何十年も続いた行事なんですよ。ところがこの何年かですよ、マンホールがたまたま蓋があるために行事ができないで歩いて帰って、そういう状況に今なっているんですよ。ですからそこら辺についてはですよ、それが今、マンホールの下に何かあるということですけども、じゃあ具体的にマンホールの下に何と何があるんで

すかね、イメージで。ちょっとずらせない状況か、マンホールそのものを横に移すということもできるわけです。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

先ほども申しましたとおり、マンホールの下には下水道管が入っております。あの辺の地区の住居、商店等からの汚水、排水が流れてくる管が入っていますのでこれは簡単に動かすことができません。以上でございます。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今の質問は通告が実はないんですよね。そのような中、古川部長がありたっけのことを振り絞って答弁をしているところであります。

一方で、こう見えていますと不登校とかいじめ等についてという通告はあったんですが、ちょっと私もきょうそういう質問があったかどうか記憶をしております。そのあたりよく精査の上で質問をしていただければと思っております。

やはり今の件は地元協議の上、つくったものであるというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

ちょっと今のことはおかしいですね。協議の上でつくったと。地面の下のことがどうなっているかということをお尋ねできるかできないかの問題なんですよ。あそこの下はすべてが、ちょっと蓋だけずらせばいいわけですから、それができるかどうかのこと言っているわけですよ。（発言する者あり）それができるかどうかね。いや、もういいです。もうそのことはいいです。後で、私の方で調査してまたお尋ねします。わからないから聞いているわけですから。

いじめ対策問題についてはですね、私別で調査をいたしましたので質問は次回にします。

道路行政の中でそういうことを実は観光の産業の振興の中で、例えばそういうふうな問題があればその行事がまた加わってくると温泉通りに賑わいが戻ってくるわけですよ。それをいうわけですから質問の通告になかったとかってということじゃなくて、そういう問題が一連の問題としてお話をしているところでございます。ただ、道路をどうするとか、どうしているかという話を私はしているわけではないんですよ。私が言うのは、そういう行事に対応できるようにするための方法としてはどういう方法があるかということをお尋ねしているわけです。以上で質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、24番谷口議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、5分程度休憩をいたします。

休	憩	11時02分
再	開	11時09分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、2番猪村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆様おはようございます。議長の許可をいただきまして2番猪村利恵子、9月議会の一般質問をさせていただきます。

6月議会が終わりまして、もうあつという間に9月議会だなという気がしております。目まぐるしく日々が過ぎていく中で、6月議会参議院選が始まったと同時に、これは6月のモニターにも記しております北方小学校西側の浸水状況でございます。これはため池でも堤でも何でもございません。小学校付近が瞬く間につかって、次の朝はまちづくり部から早朝から来ていただいて、流木などの撤去も森調整監それから山下調整監お二人にじきじきに来ていただいて片づけをしていただいたり、小学生の6年生も先生方と一緒に道路の雑木とか道路のごみも掃除をされている風景を見て、またさらに浸水、六角川調整池の促進をお願いするところでございます。

それからこれは先月8月28日に、がんばるばい熊本という被災地支援にお声をかけていただきまして朝長議員、豊村議員一緒に、行き方は別々でしたけれども行かせていただく機会を頂戴しました。このときチーム武雄も28日、29日と10名募っていただいて、市民の方々も来られるというようなことになっておりました。それもまた別の場所でもございましたけれども、この日があいにく雨でございまして、28日はチーム武雄は来られなかったというところではありますけれども、こういった中で武雄の子どもたちががんばるばい熊本、頑張りましょう一緒にというところで、飛翔倶楽部たけおの子どもたちが精一杯、アスペクタ、南阿蘇のこの大舞台で表現をしてくれました。

それから熊本のアスペクタ、南阿蘇での支援活動の風景でございますが、もう私行ってびっくりしたのはブースが両方ありますけれども、皆様見られて本部と書いてあるところがあると思いますけれども、そちら側のテントは全部武雄市内から持ってこられたテントでございました。それから反対側にあるテントの中の机、椅子、もう300人以上も座れるだろうかというような机と椅子、それから人もほとんど武雄の方が一生懸命取り組んでおられる姿を見させていただきまして改めて武雄市の皆さんのお力、それからこの3,000人というたくさ

んのお客様に振る舞いをされたりボランティアをされる姿を私、目の当たりにして本当に感激をいたしまして、そしてさらに何度も申し上げますが武雄の皆様の市民の力、人間力に、より一層触れた思いでございます。

きょう一般質問をさせていただくこの2つの項目の教育と観光も日ごろから地域の方々、市民の皆様に御努力をいただき、いろんな多面的にお支えをいただいているこの2つの中で一般質問をさせていただきたいというふうに思っております。

まず観光でございますが、観光は1つ目に地域の方々によります育成活動。地域の方々が日ごろから子どもたちの育成にかかわっていただいております。そのことについて、一番最初に地域活動においての子どもたちの育成についてお尋ねをいたしまして、それから保育士等の不足についての問題についての一般質問。それから3つ目にスポーツ振興について。これは先ほど上田議員さんも一般質問されましてかぶるところもでございますでしょうけれども質問をさせていただきたいというふうに思っております。

それから2つ目の観光でございますが、市に観光協会がございます。この取り組みについてをお尋ねいたします。それから観光協会との連携について。それから最後にシティプロモーション課設置についてのことについて御説明をいただきたいというふうに思い、それから最後に提言をさせていただきまして私の一般質問に入ります。

それでは1の教育でございます。地域での子どもの育成活動についてでございます。たくさん地域の方々にかかわっていただく行事が市内各地で行われております。教育長の報告でもございましたけれども、市内で北方町の今モニターで見ていただいておりますが、こういった活動、それから川良の活動、そういったことに対してでも非常に敬意を表していらっしゃるということはわかっておりますが、一体こういう活動が市内でどのように開催をされているのか、まず最初にお尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）今、地域での見守りでいろんな活動をしていただいております。極めて大事な事業となっております。今お話にありましたように北方の地域子ども教室も私も何か所か拝見させていただきました。本当に子どもたちが目を輝かせていろんな活動をしてくださいました。また、地域の方がたくさん入っていただいていたということでございます。

見守り活動といった場合、非常に広いわけですがけれども例えば隣近所でも朝のラジオ体操からたくさん加わっていただいたり一緒にしてもらったりもしておりますし、あるいは直接的に交通指導もしてもらっている方もたくさんいらっしゃいますし、子ども会であったり区や公民館などの事業、公民館も自治公民館でされているところもありますし、町の公民館でということもあります。放課後児童クラブ、放課後子ども教室ですね。社会体育もそうかも

わかりません。文化活動もあるかもわかりません。あるいは大きく市全体で青少年育成市民会議、あるいはまちづくり協議会の事業としていろいろしていただいているというところもあるわけであります。なかよし川良っ子とか川良の区民有志がしていただいているということでございます。

あるいは放課後の学習会。これは武雄町の老人会の方が学校に出向いてしていただいている。御船が丘の子ども見守り隊とかですね。あるいは昔遊びとかお茶摘みとか焼き物づくりとか、極めてたくさんの活動を支えていただいているということです。また通学合宿を市内10地区くらい毎年やっておりますけれども。そういうことで広い範囲で、広く狭くですね。極めて大事な活動をしていただいております。地域の人と交わることでそういう楽しさとか、つながる喜びとか、そういうのを実感しているだろうと思いますし地域のよさを感じとっている。そういう大切にしようという気持ち、郷土愛を育てていることだろうというふうに思っております。

これからの学校・地域創世プランというのも出たばかりであります、この中で今市内でもやっております、右側にありますコミュニティ・スクール。これ3校ほどやっておりますが、下の地域学校協働本部と、支援本部事業とってございましたけれども名前変わって地域学校協働本部事業となっております。これはほとんどの学校、小中学校ほとんどの学校でやっております。そういう形で以前に比べまして学校と地域、非常にいろんなかかわりを持っているということでございます。

ちょっと長くなって申しわけありませんが、意義とか必要性というのがあると思います。子どもたちの非常に健全な成長につながっていると、安全安心をもとにですね。それから地域自体の活性化につながっているということ。それから伝統文化の大きな担い手として頑張ってくれているところもございます。あるいは、これは参加していただく市民の皆さんにとっても、大人にとっての意義というのがなからんと持続しないんじゃないかと思うわけですが、これまでの経験や知恵を活用していただくというふうなことで、次代への継承をしていくと。

現在、その学校の教育活動の支援、相互理解にもたくさんかかわっていただいているということでございます。一つの例としましてこれは放課後子ども教室であります、一番上の武雄町の場合を例にとりますと、武雄チャレンジ子ども教室で、子どもが延べ1,319人。大人の方が311人かかわっていただいたというようなことで、放課後子ども教室だけでも各町でたくさんかかわってしていただいているということでございます。若木の子どもの教室では習字教室、風穴探検とか。西川登、あそびの城ではイモさし体験とか。橘、ふれあい講座の木工教室。それぞれのところでさまざまなこういう、広くいえば見守り活動をしていただいていると大変感謝をしておりますし、ともに進めていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番猪村議員

○2 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

教育長ありがとうございます。どこのまちも地域も本当に子どもたちの、未来の子どもたち宝の子どもたちのために時間を割いて取り組んでいただいているということに本当に敬意を表するところでございますが、一つ気になっているところがございまして、それは実は夏休み地域子ども教室のことでいわせていただければ、予算を、例えば北方小学校が特色ある学校づくりに夏休み子ども教室、それからコミュニティ・スクールのようなことで特色づくりに申請をされていらっしゃる。それで採択をされてことしは13万。それを全部子ども教室に注いでくださっています。夏休みは3万5,000円。そのほかこの地域のふれあい事業に基づく、このような新聞を年度末につくって全戸配付で北方町、配っていただいております。これを北方小学校が学校の特色づくりをするために全予算をつぎ込んでいただいております。そして、町は社協さんのほうに申請をして、そして資金をつくっていらっしゃるというところがございます。

それから各区においても、区からももちろん手出しをしていただいて、このような取り組みが夏休み中、期間はさまざまです。人数もさまざまですが木ノ元においては43人の子どもたちが、朝8時前から10時過ぎまでこのような形でサポーターさんたちが日々たくさん来ていただいて、それも心尽くしでいろいろな計画を立ててしていただいております。本当にありがたいなというふうに思っておりますが、その予算をこちらからもあちらからもというところではなくて、毎年毎年このように開催をされる場所では教育委員会でしっかりと枠組みをつくっていただければなというふうな思いがございます。財政も逼迫している中ではございますが、しかしながらこういった取り組みを持続可能にしていくためにも、ぜひとも行政のバックアップというものは欠かせないところがございます。こちらにおきまして、教育長、市長のお考えをお聞かせいただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

予算についてですけれども、確かに人が集まっているいろいろすればおのずと幾らかの予算は必要なおところがございます。

ただ、これが先ほど御紹介あった特色ある学校づくり事業というのは各学校の校長先生に何をやりたいかということをお聞きして、ここ2、3年は特に地域との連携の事業にお願いできないかということをしているんですが、その出所がいろいろございまして、特に国とか県の助成はできるだけ利用させてもらいたいということで、非常に出所が違うので委員会で一括してという形がなかなかとれないということがございます。

しかし、できるだけまとめられるところはまとめてというふうには思っております。十分

な予算的な応援ができていないわけであります。ほとんどボランティアでしていただいているという状況でありますが、その予算についても今後とも考えていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

きょうもたくさんの方々が傍聴にお越しいただいておりますけれども、私からも地域の皆さんにまず感謝を申し上げたいと思っております。子どもたちを見守るところで皆さんの思いを行動に移されて、そして実際に活動されているというところについては、私は本当に素晴らしいことだと思っております。

今回の、今、北方のお話をされましたけれども、恐らくほかの地域も同じようにいろいろなところから補助制度を活用しているんじゃないかなというふうに思っています。ひとつ見方を変えれば、例えば社協からとか学校から、あるいは市からといういろいろな複数あるということは見方を変えれば、それだけ多くの市との共感を得て支援のバックアップがあるというような言い方もできるのかなというふうに思っています。

ただ、先ほど教育長が申しましたように、一部使いにくいところがあったり、整理がなかなかできない、あるいは実はこんな補助金があったのにとというのが後でわかるところもあるかもしれないというふうに思っています。ここについては思いを行動にする後押しとして、しっかりと私たちのほうでまずは把握して御案内をする。加えて、整理できる部分はもう少しシンプルに整理できないか。少し中のほうでその整理作業をやってみたいと考えています。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。たくさんの方々が傍聴に来ていただいております。これからの励みになられると、よっしゃーこれからもやるばいというような気持ちでやってくださるんじゃないかなというふうに思っております。

また、市長がおっしゃるように見方もいろいろだと思いますが、一元化ができればそうですけれどもやはりいろんなところからの補助金があると。潤沢とはいえませんが、そういったところを活用しながらこれからも、どうぞいっちょよろしゅう頼みますというようにところで、地域の方々も感謝の気持ちがわかれたというふうに思っております。これからも子どもたちのこの笑顔、そして地域の方々の笑顔ですね。なかなか笑顔が見られない地域の方々も、こがんとときには一生懸命子どもの笑顔になってされていらっしゃいます。これで次世代を担う子どもたちも育成ができていないかなというふうに本当に地域の方々に感謝するばかりでございます。これからもぜひ後押しをお願い申し上げます。

それでは次にいかせていただきます。次は保育士等の不足問題についてでございます。こ

これは本当に私も免許を持ちながら全く別の仕事をしているわけでございまして、こういった方々がたくさんいらっしゃいます。保育士の数が足りないというところで、私にもよく、誰かおんさんろうかとかですね。もちろん市内からもそうですけれども市外の保育士さんからも知り合いの方、それから友人からも電話がかかってくる場合があります。会ったらそういう話にもなります。

今、武雄市で子どもの、保育を受けている子どもたちの数、それから保育士さんの数等わかれば教えていただきたいというふうに思っております。お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

御答弁申し上げます。現在市内には 20 カ所の保育園あるいは幼稚園がございますけれども、ここでの園児数につきましては 1,789 人でございます。ここで働いていらっしゃるいわゆる保育士、あるいは幼稚園の教諭の方でございますけれども、これが 291 名。そしてこれにその他の職員ということになりますけれども、これは看護師さんとか栄養士さんとか調理師さんとか、こういう形になりますがこの方々が 90 名という状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

2 番猪村議員

○2 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

人口減少によって、子どもたちの数もそれから大人もそうですけれども、減っていつているわけではございますが、しかしながら保育士さん、それからその他補助員さん方も保育に携わる子どもたちの子育て、それから保育にかかわる方々が不足しているという事態はもう待機児童が今いない武雄市においても、もう既に胸元まで来ているというようなところではないかなというふうに思います。

この保育士不足についての対策、これをどのように市は考えていらっしゃるのか。お教えくださいませ。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

保育士の方が不足をしているというのは、全国でも非常に今注目を集めているところでございます。本市におきましても、園の方からはハローワークに募集をかけてもなかなか応募が少ないと、こういうふうな声も聞いているというような状況でございます。こうしたことに対して、武雄市のほうでもいろんな対策を国あるいは県のほうと連携あるいは協力をいただきながら進めているというのが実態でございます。

具体的に申し上げますと、現在考えております不足対策ということで、まず第一点目につ

いては、現在保育士として働いている方が離職することなく継続して活躍していただくと。これが一番大事かなと思っています。これらのために処遇改善というようなことの一つとして賃金の改善、こういうものを進めてまいりました。これも平成 25 年度からでございますけれども、保育士の給与等を平均 3 % 引き上げる。あるいは人勧等をベースにした分でございますけれども、平成 26 年度については平均 2 %、あるいは 27 年度については 1.9%。こういう形で市のほうも 4 分の 1 を負担しながら賃金の改善を図っている。あるいは今年度の補正でお願いした部分でございますけれども、保育士業務のいわゆる書類作成等をこういうものの事務負担を軽減したいと、こういうことから支援システムを入れるための補助制度、こういうものもつくっているところでございます。

それから 2 つ目でございますけれども、これは離職をされて資格を持ちながら保育業務――いわゆる現場に出ているという方が、全国的にいますと 7 割ぐらいが有資格者であると。ただし、直接現場にはかかわっていないと。こういう方々にぜひ戻ってきていただきたいと。こういうものを施策として考えているというところでございまして、これは県の事業で保育所支援センターの設置をしながら、それらのニーズのマッチングあるいはハローワークでの相談会、就労支援講座。こういうものの周知、こういうものを進めているというようなことでございます。

それから、今年度の事業になりますけれども、これは県事業ということになります。新たな制度として国あるいは県の施策が具体化をしてきているというようなことでございます。今年度からの県事業としてでございますけれども、保育士修学資金貸付制度が月額 5 万円ですが新たにできると。それから県内の保育所に 5 年間勤務すれば返済が免除されるという制度です。それから新たな人材の育成ということでもあります。

それからもう一点は、先ほど申し上げました潜在保育士の方々に保育士として新たに勤務していただく。これに際しての就職準備金貸付制度は 1 回 20 万ということで、これも 2 年間県内の保育所で勤務すれば返済が免除されると。こういう制度が県のほうの補正予算の中でつくられているという状況でございます。これについては今後募集等の具体的な内容が示されてくるというふうに考えておりますので、この辺についてはぜひ御活用をいただきたいというふうに思っております。当然武雄市だけで対策をとるのが難しい部分もございまして、しっかり国、県と連携しながら進めていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番猪村議員

○2 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。そのような貸付制度とか、県の事業、国の事業、それから市が考えている事業、こういったものも埋もれている人材の方々にお知らせをする必要があるというふうに思っておりますので、ぜひ周知徹底をしていただいて子育てとかまた別の仕事をし

ていてまた復帰したいなというような方がいらっしゃったらぜひとも声をかけていただきたい。そのためにも頑張ってくださいというふうに思いますが、もう一つ。

これが子育て支援新制度における子育て支援員研修についてでございます。これが、要するに小規模保育などの保育分野や放課後児童クラブ、社会的養護、地域子育て支援などの子ども子育て分野に従事ができる研修を受けて認定書をいただければ、こういった放課後児童クラブの補助員、それから乳児院、養護施設、それから小規模保育施設など地域保育コースとか、この上の地域子育て支援コース、この書かれているところ、こういうところに就労ができるという制度でございます。ちょっと字が小さくて見にくいかもしれませんが、基本研修を8科目8時間。それからそれぞれのコースに応じて別の学科を勉強していただいて、約20時間程度お勉強をしていただいて、そして認定証をもらえて補助員として従事ができるというシステムができております。こういったこともですね、もしかして一度65歳になって退職をしたけれども、もう一度勉強をして子育てや経験を生かして子育ての支援をしたい。それから子育て支援に興味がある。だから勉強してみたいという方。そして市内で働きたいなという方の発掘にもなるし、こういった方々の新たな雇用も生まれるというふうに思っております。こういう制度もしっかりと生かしながら、市としても人材登録などをしていただいて子育て支援センターでもこういった抱っこボランティア、これは吉川議員さんと朝日公民館に行かせていただくことがございまして、たまたまこういった方たちが抱っこボランティアで携わってくださって許可をいただいて写真を撮らせていただきました。

このような形で支援センターでも、抱っこボランティアさんや子育てサポーターさんたちにもたくさん養成をしていただいています。このような仕組みの中に、また子育て支援員さんの認定証をいただけるようなコースのシステムづくり、またこれは県で事業がっております。なかなか佐賀県まで1、2月に佐賀女子短期大学で講座が行われておりますが、県内各地ではまだこういう養成講座が開設をされておられません。よければ武雄で学習をしていただける、こういう養成講座の設定などもしていただいて埋もれた人材、それからこれからまた従事したいという方たちの人材バンクをつくっていただいたりする可能性もできるというふうに思っておりますが、この件について市としてはどのようにお考えでしょうか。お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部長

○諸岡こども教育部長〔登壇〕

子育て支援員の制度でございますけれども、これについては平成27年度から始まっておるところでございます。先ほどご案内のように地域保育コースというのがございまして、26科目で6日程度でございます。この研修と2日間の実習。こういう受講が必要で、先ほど申されました修了証をいただく。こういう形でございます。

保育所でございますと、実際1日に11時間から12時間ぐらい開所をされるわけでございます、この中で8時間の勤務シフトを組むということになりますと朝夕の時間などで子育て支援員さんが補助的に配置をできる。こういうふうな制度が導入されているということでございます。

ただ、この保育士不足の関連で申し上げますと、子どもたちの育ちというのは年齢等に応じた極めて専門性というのが必要になってまいります。ですから正規の、いわゆる資格を持った方を確保する。これを助けていただくという補助的任務としてぜひ役割を持っていただきたいというのが子育て支援員さんに今後ぜひお願いしたいというようなことで、私のほうとしてもそういう制度の周知というのは考えていきたいと思っております。

それからこれは県のほうで一括して研修が行われているわけでございます。昨年、佐賀市でありましたが、これは佐賀女子短期大学に委託をして進めていただいている分でございますが、ぜひ武雄でもできないかというのは御相談させていただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先ほどの御質問とひっくるめてですが、保育士になりたいという人に対しての貸し付け、あるいは一旦離職したけれども戻りたいという方への貸し付け、それらが免除されるというのに加えて、こういった支援をしたいという方への、やりたいという気持ちがある方への環境を整えていくというのは、私は非常に重要だしここはぜひ進めていきたいと思っております。

一方で、保育士の資格を取っても、なぜじゃあ保育士にならないんですかと。希望しない理由というのは一番大きいのは収入ですね。給料が希望と見合わないというのが一番だというのはデータでも出ています。今回安倍政権も一億総活躍社会で今後、保育士の方の給与をさらに上げていくというところがありますけれども、まだまださらにもっと私なんかは上げていく必要があると思います。私も、市長会とかも巻き込んで声を上げていきたいと思っておりますので、ぜひ議員の皆さんも国に対して、あるいは党に対してさまざまところで大いに声を上げて一緒に頑張っていければというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

市長ありがとうございます。この研修におきましては、テキスト代の1,000円だけで受講ができるというようなメリットもございます。ぜひきょうここにおいでの皆様方も、地域でしっかりとサポートをしてくださっている方々で、よしやってみようかなと思われている方もいらっしゃるかなというふうに思っておりますので、ぜひこういった形で就労していただ

き、そして新たな形で抱っこボランティアさんを見ていると、一回子育てを離れた方が赤ちゃんを抱かされている姿を、これはもう安心して赤ちゃんが過ごせているというふうに私は思っております。こういった方々にもぜひこういう制度を役立てていただいて、子どもたちの未来をまた一緒につくっていったらというふうに思っております。また議員もしっかりと汗をかいていかなければならないなという課題の一つでもあります。

それでは、次にいかせていただきます。教育の最後のスポーツ振興についてでございますが、先ほど上田議員さんから、しっかりと説明を、一般質問をしていただきまして私が申すまでもないというようなところでございます。10年間の議員生活をしっかりとスポーツ振興にかけてきた上田議員さんの熱い思いを、私も先ほどからしっかりと受けとめさせていただきながら、未熟ながら私も一般質問をさせていただきたいところではございます。

まず、武雄市のスポーツ人口は一体どのくらいなのかというところから、質問をさせていただきます。お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

武雄市のスポーツ人口ということでございますけれども、モニターをごらんいただきたいと思えます。（モニター使用）これにつきましては、平成27年4月1日現在の各種スポーツクラブ、小中学校の運動部所属の方の人数でございます。これは佐賀県スポーツ現況調査からの抜粋になります。小中学生で2,614人、それから60歳未満の方で1,224人、60歳以上の方が1,636人ということで合計5,474人の方を把握しております。これ以外にも、自主的なグループ等でスポーツをされておられる方、個人でされている方もたくさんおられます。ということで、週一回以上スポーツをされている方ということで推計をしました。県のスポーツ意識に関する調査というのがございまして、20歳以上の方で週一回以上スポーツをされている方のパーセンテージが37.1%というようなアンケート調査の結果が出ております。平成28年7月現在で武雄市の20歳以上の方4万301人でございますので、これに37.1%を掛けますと約1万5,000人の方が週一回以上スポーツをされているというような推計ができるということでございます。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。約1万5,000人の方々が週一回以上スポーツをされているというような統計をとっていただきまして御無理をいってとっていただいた次第でございますが、市内29のスポーツ施設がある中で、このような形で、またそれぞれの公民館でも余暇活動としてスポーツをされている方もいらっしゃいますが、市内の29施設をふんだんに使っていた

だいております。

スポーツ振興の中で、これもまた上田議員さんとかぶるんですけども、公共施設等のマネジメント、アセットマネジメント計画、これが進んでいるというところで上田議員さんの一般質問で答弁をしていただきましたけれども再度お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

アセットマネジメント、公共施設等総合管理計画につきましては 28 年度中に策定をする予定でございます。

またこれに続きます個別計画、これにつきましては各施設を所管しております部署において 29 年度以降に策定をするということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番猪村議員

○2 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ほかの議員さんからも声が上がっております、財政的な面で非常に一番頭の痛いところだというふうに思いますが、しかしながら私が一番問いたいのは、白岩の体育館も競技場も昭和 50 年、51 年、北方のスポーツセンターも 53 年、サンスポーツランド北方は平成 2 年でございますが、それでももう 40 年を超えるような施設でございます。こういった施設に今後、手を加えて予算を投じて維持をしていかれるつもりなのか。それとも次世代の子どもたちにバトンタッチができるような施設を今後つくっていかうと思われているのか。これは非常に大きなところだというふうに思っております。一日でも早い計画を立てていただいて、そしてどうしていくのか。これは町民の皆様それから市民の皆様からですけども、私にも声が届くところでございます。体育館が支柱が立てられんごとなつととぼってんとか、もう雨漏りがしよるとぼってん、床がずぶずぶしよるとぼってんとか、そういう話も聞きます。

この計画をしっかりと立てていただき、そして何度もいうようにこれからの子どもたちにバトンタッチができる。そしてオリンピック、パラリンピックにも出場選手がいるよと上田議員さんもおっしゃっています。武雄からも期待の星がたくさんいらっしゃる。またこれからも育てていかれるというふうに思います。

それからバリアフリーの問題。パラリンピック、障害をお持ちの方々もそうでない方々も一緒に集えるような施設、スポーツや文化、それから防災にもたけている施設を武雄市に誘致をしてインバウンドしていく。こういったことも大変重要であるということ私もそう常々思っております。

ここのところをもう一度市長お尋ねいたしますが、こういう施設をしっかりと次の次世代の子どもたちに、市長も子どもさんいらっしゃいます。次の子どもたちに、子や孫にバトン

タッチができる施設をどう考えていらっしゃるのか、お尋ねを申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

この整備計画については今後の財政を見ながら、ただし暗いものになるのではなくて、その中でも何かこう未来に希望が持てるようなものがつくれないかというふうに考えております。スポーツというのは私、市民の皆さんの健康増進、加えて上田議員の質問とも関連しますけれども、集客と、この2つの面があると思います。まさに民間の皆さんと官民一体でできないかとか、そういった柔軟な発想でぜひそこは希望の持てる計画につくり上げていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

もう一つですけれども、民間との連携、とってこれからやっていかなければいけないところでほかの自治体もやっています。市それから、いろんな国や県そういったところの交付金。そういう模索もしていかなければならないというふうに思っております。旧北方町に過疎債がございました。合併しておりますので、北方町にだけ使えるということではないというふうには思っておりますが、こういった有効な対策、こういったものも模索をしながら交通アクセスの良好な位置を、それからそういったところを模索しながら今後もこの公共施設等のマネジメント計画を着実にそれからいち早く、取り組んでいただきたいというふうに思っております。未来の子どもたちのためにでございます。よろしく願いいたします。

それでは最後の質問でございます。観光について。観光協会が武雄市にございます。この観光協会の取り組みについて簡単に結構ですのでお答えください。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えいたします。観光協会の資料の抜粋で恐縮でございますが、その役割につきましては7つほど項目が挙がっております。

まず1つ目でございますが、何といたしましても観光情報の発信でございます。最近でございますが、ホームページをリニューアルされまして、またその四季折々の時期にあわせてところの見どころを踏まえたそういった資料もつくられております。

それから2番目が観光資源の調査研究でございます。

3番目に観光施設の整備促進。

そして4番目に郷土文化、文化財伝統等に関することでもあります。特にこの頃につきましては、日本遺産という形で陶器の文化群が認定をされましたので、武雄の焼き物について特にそういったことを重点的にやっております。

5番目でございますが、観光客の誘致及び接遇研修です。ボランティア外の皆さん方も、こちらのほうに所属をされておりましたして活動をしていただいているところでございます。

6番目、地場特産品の振興でございますが、昨今では物産まつりの機会等を利用して、焼き物と食を結びつけるような取り組みをしていただいております。

それから最後に施設運営の管理等という形になっております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

それでは、この観光協会との連携についてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

観光協会との連携ということでございますので、一番関係がありますのは私どもの営業部の観光課でございます。当然でございますが、あくまでもお客様の立場に立って観光の事務業務、行政の業務と分け隔てなく一体となって取り組んでいるというつもりでございます。

特に観光資源を磨き上げるとか、特に誘致につながるようなきっかけになるようなイベント等については協力体制をとらせていただいている状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。観光協会があつて観光課がある。市民の皆様にはなかなかわかりづらいところがあつて、しかしながらこういつてさまざまところで観光を担ってくださるところがある。そして行政もかかわっている。ここの連携がうまくいつてこそその武雄市の観光ではなかろうかなというふうに思うところがございまして、質問をさせていただいたところでございますが、今回武雄市にシティプロモーション室という部署が設置をされました。

簡単に結構ですので、しかしながら簡単かつ熱く説明をしていただきたいといふふうに思っております。お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

まもなく正午になりますけれども、引き続き一般質問を続けます。

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

今年度4月にシティプロモーション室を設置をいたしております。目的、役割といたしましては武雄市の魅力、これを市の内外に効果的に発信をすることで市外の方に武雄市に移り住んでいただく。あるいは引き続き武雄市に住んでいただく。こういったことを目指しております。

具体的には、各課がこれまで個々に情報発信しておりましたが、こういった情報発信を集約、そして共有化をいたしまして市の魅力をわかりやすく発信していく。こういうことに努めているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

市外の方々にしっかりと観光PRをしていく。それからいろんな武雄市の魅力を発信していく。これは非常に大事なことで、私もこのシティプロモーション室設置は大いに結構だなというふうに思っております。静岡県の藤枝市がソフトバンクと連携をして、そして包括プロモーションというかですね、包括をして教育や環境、観光、ICT、そういったことも包括をして取り組んでいると。その中にもしっかりとシティプロモーションがございまして。

シティプロモーションは、観光振興や地域再生や、もう一つ私は大事だなと思うのは市外の方々にももうどんどん発信をしていただかなければなりません、市民との共同もしっかりとつなぐ役割があるというふうに思っております。営業部観光課、それから農業にしてもそうですけれども、教育、環境、福祉、さまざまなものがこのシティプロモーションに取り込まれるというふうに思っております。

そしてしっかりと市民の皆様と共同をして市民の方々が住みたいまち。市民の方々が武雄市いいよっていうまち。そういうまちをぜひとも発信をしていっていただきたいというふうに思っております。

最後になりますけれども、武雄市のさまざまな事業を私がちょっと残念だなと思ったのが、市内の方々、それから有名な飲食店、そういったところが市の大きな事業を知らないとおっしゃることがありました。それも何度もありました。IT化でSNSを使われる方ばかりではありませんので、やっぱりポスターを貼っていただいたり、そういった有名な飲食をするところ、女性は特にですけれどもおいしいからまた行こうというように温泉もまた行こうと。うちの実家の母も毎日武雄温泉大好きで行っております。そういったところで毎日足を運ぶ。週に必ず足を運ぶようなそういったところにポスターやチラシ、そういったところがちょっと武雄市は少ないんじゃないかなというふうに思うところがあります。そういったのも数名の職員さんたちだけでは補いきれないところがあるというふうに思います。

それをちょっと提案のようになりますが、こういったきょう傍聴にも来ていただいております。

ますが地域の方々には、よかよ時間のあるけんが来んね、よかよ私がして、というような協力体制満々の方たちがたくさんいらっしゃいます。そういった方をぜひ、観光PRば加勢すつたいと、いうようなおばさんおじさん方を募って、よかよ私たちが加勢するよ、そういった人たちも人材登録などをして地域にポスター貼ってもらったり、お店に貼ってもらったり、そういった観光地にPRをする方はいらっしゃいますが、そういった市のポスターやチラシやお知らせごとをもっともっとたくさんの方々を知っていただくためには、こういった市民の力、皆さんのやる気のある市民の皆様のお力をいただかなくては私はもったいないという気がしております。ぜひともこの加勢すつたいは、もう私の考えでございしますが何でも結構です。こういった市民の皆様のお力を使わせていただくということも一つ考えていただければなというふうに思っておりますが、市長、最後にお尋ねをいたしまして、私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

市民の皆さんに知っていただいて、そして実際に参加をしてもらって、あーよかったなと感じてもらおうというところが私も非常に大事だと思っています。あわせてそこでロコミというのも非常に大きな、最初の知るという部分では大事かというふうに思っております。

先日も高校生と語る会で話をしたときに私たち、高校生にどう伝えればいいのか、SNSだろうというふうに思っていたんですけどもいやいや違ふと。例えば武雄温泉駅とか高橋駅とかそういったところにポスターを貼ってもらうのがいい。あるいは学校の掲示板にビラを貼ってもらうのが実はいいんだという話を聞いて、もう恥ずかしながら私も目から鱗が落ちたところです。そういう意味で行政としてはまだまだですね、どこに人が集まるのか、どこにするのが一番効果的なのかというのをまだまだ我々はできる余地があるというふうに思っておりますので、今言った発想でまさにシティプロモーション室を中心に横断的に私たち市の職員として発信をもう一度考え直したいというふうに思っております。

加勢すつたいについてはまず猪村さんが隊長で、きょう傍聴の方は隊員でやっていただきたいなと思います。皆さんの思いとロコミがさらなる参加につながっていくと思いますので、リーダーシップとしてよろしくお願ひしたいなと思います。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

まず隗より始めよではありませんが、言い出しっぺからやりたいというふうに思っております。ありがとうございました。

これで猪村利恵子一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、2番猪村議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、1時30分まで休憩をいたします。

休	憩	12時05分
再	開	13時30分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、20番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）すみません、モニターをお願いします。

議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を開始いたします。

大きな項目は2つ。地域活性化の中にいくつか項目を入れておりますので、いろいろこれから項目ごとにやっていきたいと思えます。

もう秋の気配も近まりました。こうやって栗もいっぱい落ちていて、落ちてくると今度はイノシシが来るので、その対策も必要となってきますけども。では、やっていきたいと思えますけれども、私も猪村議員さんと一緒に忘れました。すみません。

これきのうのヤフーのトップニュースです。なかなかぱっと目にとまらないかもしれませんが、不動産投資がバブルを上回っていると。これはもうほとんどなかなかびっくりするようなことですが、実際これは中央だけじゃなくて地銀のほうも多くこうやって不動産の融資がバブルよりもふえている。ちょっと読みにくいので拡大しました。27年ぶりに不動産投資が上向き。それもですね、バブル、私バブルの世代です。バブルのときにピークで2兆円だったのが、今3兆円らしいんですよ。専門家も年度末、来年あたりミニバブルになるかもしれない、多分なるのではないだろうか。

これはもう御案内だと思いますけれども、バブルが始まったのは1985年G5のときですね、金利が低くなってだぶついた資金が不動産に流れてきた。今もマイナス金利だから余計流れやすい。こういうのが今回の質問の基本にありますので、これを頭の中に入れてながら質問していきたいと思えます。

これはですね、湖水祭りです。来た方もいっぱいいらっしゃると思うんですけども、今ちょっとこの場所は太陽光発電になりましたので中止になっているんですけども、湖水祭り、バブルのときに始まりました。バブルのときに始まって1,000人、2,000人、3,000人と来るような大きな祭りになりました。

祭りといえば雄武町の祭り。これも武雄が友好都市を開いているところですね。ここでですね、雄武町は市長も行かれた、職員さんも行かれている、議員も多く行かれている、そう

いう中で雄武町というのは雄武ブランドを持っているんですね。サケ、カニ、ホタテ、イクラ、どれも美味しいやつです。この雄武町の祭りに行くと、まず雄武町特産のところに、ずらーっと買い物客が並びます。

逆に武雄の物産祭りのときにどうなのか。雄武町の特産品が一番先に売れちゃいますね。本来だったら雄武町のやつを武雄に移せば、武雄の物産のほうが並ばなきゃいけないのに雄武町のほうが売れている。雄武町の、向こうの本体自体でも雄武町が売れている。やっぱり産直のブランドを持たなきゃいけないんじゃないかというふうに思います。

1個戻りますね。この湖水祭り、バブルのときに始まりました。このときに何が始まったのか。湖水祭りという言葉はよく知られているんですけども、これはサブタイトルがあるんですね。湖水祭りのサブタイトルは、日本一を食う会だったんですよ。日本一を食う会がどういうことかという、ちょうどバブルのときに大阪市場でだったですっけ、若楠ポークが最高値をつけたんですね、競りで。それで日本一の品質、日本一美味しい豚ということで、日本一を食う会湖水祭りということで始まったわけです。

今ちらちら話しましたけれども、武雄もいろんなブランドを持たなきゃいけない。雄武は雄武のブランドを持っている、武雄も武雄のブランドを持ってなきゃいけない。いろんな皆さん方、農産の人たち頑張られている。パクチーもそうです。例えば卵のミスルージュもそうです。卵じゃなくてトマトだ。卵は伊藤さん家の卵でしたね、すみません。いろんなやつでやられているけど、武雄に行けばこれが食べれる。鹿児島にいけば黒豚食べたい、いろんなやつが出てくると思います。武雄もそういうのが必要。

これ以前行ったことがあるんですけども、郷ひろみっていますよね。郷ひろみのコンサート行きました、知り合いに連れられて。そのときトークショーのところで、トークのコーナーで佐賀県ってどういうのが特産？って言って郷ひろみが会場に投げかけているんですね。そうしたら私座って聞いていたら佐賀牛とか会場から声がかかるんですよ。こっち側から伊万里梨とか、ムツゴロウ、イノシシって言おうかなと思ったけど、なんかちょっといまいちあれでイノシシと言えなかったんですけども。やっぱり何か特産をPRもっとうまくやらなきゃいけない。武雄にいけばこれが食べられる。すみません、長くなって。食の話をしていきますけれども、前ここで何度か言った例で、じゃらの佐賀県の旅館、産地の満足度ナンバーワンは太良だと。それはカニっていう太良ガニ、ブランドがあるからよかったんですね。やっぱり武雄もそういうのがなくちゃいけない。

この次なんですけど、武雄独自の特産もあるじゃないか。若楠ポーク。これをもっと宣伝してブランドにあげていったら、全国ブランドにあげていくようなこういう仕掛けができなかったというのが最初の質問です。

全国にはですね、豚のブランドというのは255以上、今わかっているところでは255の豚のブランドがあると思います。その中でやっぱり有名なのは鹿児島の黒豚、アグー豚。それ

ともう1個なんでしたっけ、いろいろありますよね。金華豚か。そういうのありますけども、そういうふうなブランドまでこういうのをあげていくというのが必要。味は私全部食べました。絶対負けていません。反対に美味しいぐらいです。ですから、そういうことをもっとPRして、イノシシのときも盛んにPRしました。武雄産のイノシシ調理法。この武雄市役所にもイノシシの視察いっぱい来られました。

こういう若楠ポーク、本当に武雄にきたら若楠ポークが食べられる、こういうのが食べられるとそういうPRをやって若楠ポークブランドをあげていくというのはいかがでしょうか。まず最初の質問になります。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

若楠ポークは非常に美味しいと思います。私が武雄に来てですね、川良のAコープに行って売っていますから、ときどき若楠ポーク買っていました。もちろん細切ればかりやったんですけれども買っていたんですけれども、非常に味は折り紙つきだと思っています。妻とも、これは本当に皆さん普段食べているとわからないけれども、非常にこれは美味しいということで私もこの若楠ポークはぜひブランド化をしたいというふうに思います。

そういう意味で、やはりまずは食べてもらう、味わってもらう。味わってもらってすぐ買えるという環境づくり、加えて外への売り込みもあるのですが、さっき牟田議員がおっしゃったように、ここでしか食べられないというところをですね。ここはJAもされていますから、JAの方と話をぜひこれはブランド化していきたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

さっきからバブルの話です。バブルのとき私大学生になって東京に行きました。東京で感動したのが2つあってですね、美味しかったと。

例えば1つ目が、トップスのチョコレートケーキってあるんですよ。市長御存じですか。あれを30年前食べたときに世の中にこんな美味しいケーキがあるんだと思ったんですね、それが1つ目。

2つ目はトンカツです。東京でトンカツ食べて、世の中がんうまかトンカツのあったと、と。調理法が違うんですね。肉質はこっちのほうが勝っていると思うんですけれども、そういうふうに全然違う。私が思ったのはこの2つが食でのカルチャーショックを受けました。

今も東京で、ある県議さんと東京行ったときに、牟田くんトンカツうまかところあるけんが食べに行こうよと言われて行きましようといったら、僕が30年前に行ったところと同じとこだったんですね。

やっぱりそういうふうな調理法、イノシシのときもやりましたよね。イノシシをPRするときもいろんな調理法とかなんとかやってみました。同じようにそういうふうな、いろんな勉強して美味しいといわれるようなトンカツ。若楠ポークゴロゴロカレーでもいいですし、一口カツでもいい。何しろ武雄産ですから、武雄産。雄武町の方が武雄に表敬に来たとき、これは佐賀牛ですよ。佐賀牛というのは確かにいいです。市内の業者さんも佐賀牛つくられている。でもあれは佐賀のブランドで認知されているんですね。もう一つ言えば伊万里だったら伊万里牛というのがあって、伊万里牛というブランドが確立されています。

そういう中で、本当に地元産ということでここでしか食べられない、武雄のやつだよということでやっていただければ。鹿児島行ったら黒豚食おうという話が、今度は長崎いく途中に武雄に寄って若楠ポーク食おうぜと、こういうふうになるような、ぜひブランド化をお願いしたいと思いますし、市長の答弁も、やっていただけるということで安心して次の質問に移させていただきます。

次、これも関係するんですけども武雄しかないもの。武雄だとなかなか住んでいてピンとこないもの。本当に思うのが特産じゃないですけども鷹匠さんですね。女性鷹匠。本当に地元で身近すぎて、逆に害虫駆除という観念しかない部分があるかもしれませんけれども、例えば武雄で一番有名な番組に出ている回数が多い人だと思います。例えばSMA P解散しますけれども、解散したかな、するのかな、したんですけどもスマスマには出る、金スマには出る、法律相談所には出る、もういろんな出て、物すごく知名度があります。でも地元はなかなか近すぎて反対に害鳥駆除というイメージが強すぎてなかなかこない。

この前、これはポスターです。大分市のポスターです。大分市がつくられたポスターをめちゃPRしていますね。これは何でポスターつくったかという、やっぱりこうやって女性鷹匠さんがみえられると。これムクドリ対策で行かれたらしいんですよ、大分の港の。これをただムクドリ退治するだけではもったいないからこうやってPRしようといったら、めっちゃ人が集まったらしいです。

やっぱり一つの観光資源。人間を資源という言葉では失礼だと思うんですけども、物すごく可能性を秘めていると思うんですね。相変わらず今でもどんどんオファーが来ている。いろんな面でやれば彼女らの知名度も上がりますし、例えばいろんなところでやる時に武雄のはっぴを着ていただいていいじゃないですか。紹介するときは佐賀県武雄市の女性鷹匠さんということで名前が出てきます。いろんな面でプラスになると思います。

よく結婚式場で、センチェリーホテルの上からぱっと投げて下でこうつかむというのもひとつのアトラクションでされますけれども、福岡ドームでもやられましたよね。鷹だからホークスということで。いろんなことでPRできると思います。もっと協力して全面にして観光客をふやす1つの特産。さっきから言いますけれども、人間を特産という言葉の使い方はおかしいと思いますけれども、もっと協力関係を築いてPRすれば、くる人も武雄市の知名

度も上がっていくんじゃないかと思います。

今度ホワイトファルコン、最近ホークスとか負けが多いですね。あつという間に優勝するかなと思っているけど、なかなか優勝できるどころか2位に落ちたり、例えば白鷹をホークスの負け試合のときにPRして売り込みにいけば、ひょっとすると使っただけのかもしれないし、そのときに武雄市という言葉を使っただけのかもしれない。そういう中でもっと彼女らと協力して活用できないか。

これも仮の話ですが、武内町に登り窯がありますよね。登り窯の横、スロープのところ上からこうやってするのをやりますよといって観光客を集めたら集まるんじゃないか、いろんなことが考えられます。ぜひそういうのを鑑みてこれからも協力体制、そしてもっと背中を後押し、そういうことができないかというのを伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

議員さんのほうから御紹介いただきましたので、私どもの今の認識としまして少しお話をさせていただきたいと思いますが、鷹匠の石橋さんが中学生の頃から、数多くの、おっしゃるとおりマスメディアに出演されまして、先ほど御紹介がありましたようにプロ野球のイベント等でのフライトショーの実演をされております。常に出演時には武雄市を宣伝いただいておりますし、大変観光のほうとしても感謝しているところでございます。

また県外のイベント等で観光PRに同行いただいた際にも、鷹をつれて石橋さんが登場されますと周辺の雰囲気が一変しまして、集客効果はすごかったというふうにお聞きしております。現在、楼門朝市とか地域イベントでも鷹などを連れてこられましてイベントを盛り上げていただいております。

今後でございますが、御指摘いただきましたような形で、いろんなイベントでどのような形の御出演が可能なのかということと、それから今の観光客の皆様方、体験型のツアーやそういったプログラムをお好みになりますので、実際に観光客の方が鷹を扱うところをお手伝いもできるのかどうか、そういった可能性につきましても今後御協力いただけるような内容を御相談して、引き続き情報発信を行っていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

20 番 牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひこういうふうには、一つの例で言いました。今例えばホークスが負けがこんでるから、こういう白鷹を持ってイベントできませんかというのを、こっちから宣伝しに行くとか、そういうのを後押しとか。もちろんテレビ出演とか何とかのときには、武雄の宣伝になりますのでそういうときにはきちんとお願いしに行くとかPRするとかやっただけであれば集客力、

そして武雄のPR力にもなっていくと思うので、もっと協力関係を築いて進めばお互いにいいと思います。ぜひお願いしたいと思います。

武雄の特産品なかなか見えない部分があります。若楠ポークというのも昔からありました。彼女も昔からいました。なかなか活用できていないのをこれからそういうふうにして特産をもっと活用して地域力を上げていく、そういうことをお願いして次にいきたいと思います。

次、小さな項目2番目、移住政策の進行具合。

これも3月、6月と質問してきました。ウェルカムハウス、こうやってできています。こうやって完成しました。完成して、思った以上の申し込みがあると。

前回までの答弁の中に空き地バンク、空き家バンクってその前からありますけれども、そういう中できちんと、例えばマップの中に落とし込んで見に行く。どんどん進んでいるんだろうなと思ってはいたんですけどもなかなか進んでいないような感じがあります。もう何カ月かたつので進んでいないような感じがあります。

僕の3月議会、6月議会の質問の大きな骨子は、鉄は熱いうちに打てでしたよね。やっぱりですね、そういうふうな需要があるときに向けてやらなきゃだめということで、言っていたんですよ。

それで、例えば空き家があります、登録しています。牟田くん、前は職員さんがよう連れてまわりよったばってん、もうここ何カ月か一回も連絡も何もなかよと。前はよくあったと。これは一人とかじゃなくて何人かから言われるわけですね。

で、今度空き地バンクというのがありますからと、前回質問が終わっていつているときに、空き地というのは前回の消防団とかいろんなやつで集めた空き地調査、空き家調査でもう数字は出ているけれどマップ上にまだ落とされていない。空き地バンクというのもなかなか見えてこない。そういう中で、この進行具合はどうかお伺いしたいと思いますし、どんどん進行してほしいものを要望して質問にかえさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

移住政策について、どういうその後の状況かということございます。

議員さん御指摘のように3月、6月に鉄は熱いうちに打てと、オファーがあるうちに受け入れ体制を整えるべきではないかということでの御指摘をいただいております。

そういうことで今あります空き家バンクについても引き続き、新規登録等もございまして、そういったものについても集約をして、お住もう部屋のホームページで紹介をさせていただいているところでございます。

ただそれについても従来どおりの話ですので、それにくわえてじゃあどうするんだという中で6月議会等で空き地バンクの検討をやっていると、いうふうなことでお答えをしとった

かと思えます。

この空き地バンクにつきましては前回、空き地調査といいますか、空き家調査の中で解けた更地もありますというふうなことで、その更地の地権者に御紹介をしてみませんかというふうなことの、今追跡調査といいますか意向調査をやっているところでございます。

あわせて空き地バンクをつくるにあたって、空き地を取得するにあたっての補助制度、あるいは支援というのを新たにできないかということで現在、制度設計を進めているところでございまして、年内にはこのマップに落とし御紹介ができるような状況をつくっていきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。非常にうれしかったのは、年内という最後の期限をいっていただいたのでこれは安心して質問してよかったなと思っています。やっていきますだけじゃやっぱり心配なので、そうやって年内にはという言葉が心強かったです。

空き家、空き地、不動産補助、そういうことで総合的にやっていただければと思いますし、先日、これは多久です。多久の山本議長さんと懇意にしまして、議長さんの紹介で担当課と話していて、これは6月議会で質問したときの多久がやっている分譲地の売れ状況ですね。これ1、2、3、4、5、6、7です。その後、今回どうなのかというと、もうこれだけ売れましたと。多久のほうですね。今4、5番がお話中ですよ。こんなに何カ月かですぐ売れていて、その後、これ市外からと市内は何対何ぐらいですかと聞いたら、二十数組のうち10組ぐらいが市内ですよ。残りは全部市外から来られていますということで言われていました。

もう一つ、メープルタウンというのを以前からやられているんですね、多久市さんは。多久市がメープルタウンでやっていて、あそこは150世帯くらいだと思うんですよ。150世帯中半分以上、やっぱりよそから来ている。今、メープルタウンはどういう状況かということ、年間固定資産税が5,000万から6,000万入ってくると。年間ですね。ですから一番最初の投資はもう、とうにかバー、回収されたんですね。さらにそこに子どもたちが来る。そしていろんな人がいるということで経済が回る。やっぱりこういうふうなのがやられています。

そこで一番最初に話したのが、今やっぱり不動産投資が物すごく伸びているというのが、出てきています。これは一つの例で言っているわけですよ。伸びていっています。それはもう一番最初、繰り返しになりますけれども銀行の融資はバブルを上回る投資が上半期だけ出てきた。下半期だけでどれだけ伸びるだろう。やっぱりこういうのも一つの政策だと思いますし、参考にするべきだと思います。

もう一つ聞いたんですが、ほかに何か移住政策やっていますかと。そしたら新婚家庭家賃

補助制度というのをやっている。新婚家庭で市内に家を借りたら、部屋を借りたら月1万円補助しますと。そしたら4万円のアパート借りた人は3万円がいい。本当は小城に住もうかなと思った人が多久にアパートを借りて住んでいる。そういう状況があるらしいです。でもこれどんくらい使いよんさーですか、使いよつと結構おんさーですかときいたら、今80組が使われていると。80世帯ですね、新婚ですから。こちらの80世帯が使われているということです。やはりこういうのも一つの・・・間違うとったかな。(発言する者あり)80組が使われているということでした。そういうことで、いろんなことがやっているとされます。

不動産投資、例えばこれも聞いたところによると北方町の民間でやられている分譲というのも、もうほとんどすぐ埋まっているらしいですね。その民間の不動産屋さん頑張っているかもしれないけれども、そういうふうにしてすぐ埋まっている。

そういう中でやっぱりこういう空き地バンクですね。空き地バンク、そういう不動産補助、ぜひこれからの時代そういうふうな状況だから年末にはということで進められています、いわれていますけれども、さらにいろんなよその地区には負けないような魅力あるようなことをやっていただきたいんですけれども、市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

確かに牟田議員おっしゃるとおり、例えば北方にしる住宅を分譲地をつくったらかなり早く埋まっているというような現状があります。武雄町、朝日町、さっきもあげた北方町というのはあるんですけれども。一方で若木なら若木に住みたいと、住みたい方にちゃんとした環境を用意しておくというところは、私は非常に大事だと思っております。

こういった分譲も1つのアイデアですけれども、分譲前にとにかくあるものを生かすと。さっきからのテーマの1つでもありますけれども、あるものを生かすということととにかくまずは空き地バンクを年内にしっかりとやり遂げるというところに全力を尽くしていきたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひお願いしたいと思います。

続きまして、移住政策の中の校区制度。前回、校区制度って同じ質問したんですけれども、字半分ぐらいしか書いていなかったのが今度大きくしました。何でかという、いまだにこうやって保護者の人とか校長先生も知らない。校区制度がどこどこから、どこどこまで。どこどこ小学校からどこどこ小学校のほうに移るのに、そういう制限が甘くなった、なくな

ったというのを知らない人がいる。そういうふうな保護者も職員さんも知らない、校長先生も知らない。例えばある人が、校長先生にこういうふうにして、今朝日に住んでいるけど、武雄に住んでいるけど、小学校を若木にやりたいけど校長先生に聞いたらだめだといわれたと。

でも、ここで質問何度もしていますけれども、撤廃というかやりやすくなったと。そういうふうな周知徹底をさらにお願ひしたいのですけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

校区制度につきましては、極めて弾力的な運用をいたしております。現在で約 58 名の対象の区域外等の交流がっております。またこのほかに花まる学園にかかわった移住等もあるわけでございます。

ただし、そういう弾力的な運用ではありますけれども、完全に自由校区制にするという形は委員会として法的にも定めておりません。そういうことで保護者の要望によりましてですね、学校で判断をしているということでございます。もちろん、これまで数年にわたりこのことについてはいろんな御議論をいただいていたところでございます。

ただ片方に、猪村議員の御質問のところにもありましたけれども、地域の子どもは地域で育てるという極めて強い活動もあるわけでありまして、通学登下校、保護者の責任にもなります。そういうことで新聞等によらずとも小中の絆というのは非常に極めて大きいものがございます。そういう、もろもろの教育的な判断と、実際に昨年こども部と一緒にってから気づくんですが、極めて幼稚園、保育園の段階でも広い範囲で通園、通所しております。そういう今日的な状況。そして何よりもそれぞれの学校が極めて特色ある取り組みを、全国に通用する取り組みをしてもらっておりますので魅力としてはたっぷりであると。

ただそういうことで、議論の中では片務的な開放という話もあったんですけども、委員会としてそこまでの決断はできずしております。

ただ保護者の要望があった場合には、極めて弾力的に対応しているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

わかりました。弾力的にやっているというのを、広報よろしくお願ひいたします。

では次、地域の活力の分で補助制度。今度、地域で頑張る団体を応援しますということで、武雄市がんばる地域応援事業補助金というのがありました。これは本当小さな団体から大きな団体までいろんな、今までこういうことをやりたい、ああいうことをやりたいというのを

実現していただいた補助金です。多分あつという間になくなったとは思いますが、こういうことが本当に地域を活性化していただく。仮の話、例えば山登りグループがあつて、どこの登り口の階段が崩れているから俺たちで何とかしてやりたかもの、ぼつてん手銭ばずつと出してすつとも大変やもの、じゃあこういうときはこれを頼もうとか、いろんな今まで補助金申請というのができなかった、もしくはできかねなかったところがこうやってこの制度でやらせていただいて、これは大きな地域の活力にとってはプラスになっていることだと思います。ただ漏れ聞いたところではもうなくなっちゃつたと、あつという間に。

ですからやっぱり、そういうふうな需要があるということですから、ぜひこういうのを継続してやっていただきたいと思ひますし、また年内でもですね、前回漏れたところ、漏れたところというのは、これはだめですよと漏れたところと、予算がなくなってだめですよという2つがあると思ひます。ですから予算がなくなってだめですよ、でもこれは本当はつけてやりたかつたんだけどなとか、いろんな考え方があると思ひますけれども、ぜひこれをもう一度やっていただきたいんですけれどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

（モニター使用）武雄市ががんばる地域応援事業補助金、この制度につきましては今年度取り組みを始めさせていただきまして、5月から募集をさせていただきました。現在までに11団体の皆様から申請をいただいている状況でございます。

スライドのほうをごらんいただきたいと思ひます。4項目の分野でそれぞれ申請をいただいております。スライド2枚目、あわせまして11事業について申請をいただいております。議員御指摘のとおり、予算残額が少ない状況でございます。

今後お問合せの状況、こういったものを踏まえながら、自主的な地域活性化の取り組みでございますので、きちんと支援できるように予算面も対応してまいりたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひですね、こういうのをどんどん伸ばしていろいろな事業を取り組んでいただきたいと思ひます。地域にもですね、こういうのがありますよというのをどんどんやっていただければと思ひます。

では次、農業に関してです。農業というのは今回は渇水対策であります。梅雨が終わり大雨で全市避難勧告が出た、それぐらいの大雨が降って、その後以来雨がずっと降ってなかった。そういう中どうなったかという、やっぱりこういうふうな稲が、稲っていうか地面がひび割れ、枯れて、もちろん、これは拡大して申し訳ないですけども堤も底をつき、そう

いう中でダムよりも下はダムを放流してもらうから、ダムの水系の人はいいですね。ダム放流の水系の人は。こういうときに何かしら渇水のお手伝い、もしくは対策の補助ができないものか。

例えば一つは、新たに堤をつくると。

例えばもう一つは、堤で今まで堆積したものを、土を取って深くしてためる量をふやすとかいろんな方策があると思います。そうした場合の方策、どのようなものがあるんでしょうか。これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

まず、ため池の新設ということでございますけど、農業基盤整備促進事業等で国からの補助を受けるメニューがあります。地元分担金等は5%でございます。まず手順といたしましては、この事業にもやはり受益面積等の採択要件がありますので、その確認。それと適地が本当にあるのかどうか、その確認。受益者の同意などの法手続、それと水利権がとれるか、各関係機関との協議等を経て事業認可審査となります。事業実施には受益者皆様の同意や水利権問題など、ハードルが高いと考えられます。

また既存のため池の浚渫でございますが、ため池整備事業や、基盤整備促進事業等の国庫補助のメニューがございます。採択要件等がいろいろありますので、個別に御相談をしていただければ、事業にのせられるかどうかというのが判断できると思います。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

いろんなメニューがある。例えば、ため池の新設とかになると、億かかると5%だから500万ぐらい、受益者負担になってくるんですかね。

なかなか厳しい要件だし、いろんなその他の水利権とかいろんな部分で大変だと思いますし、とにかく必ず水が足りないというのは何年かに1回は出てきますので、そういうので新しくやっぱりこういう方法がありますよというのはアンテナを高くしてそういうのが少なくなるように、ぜひお願いしたいと思いますし、先ほど部長さんが御心配なら個別にきてくださいということだったので、ぜひそういうことで相談に乗っていただければと思います。

水害対策はですね、水害というのは本当の水が出てくる水害、それと渇水も1つの水害なんですね。だからそういう意味で、水が本当に出てくる水害というのはいろんな対策が立てやすいですけども、この渇水対策はなかなかなくてですね、ぜひいろんな相談に乗っていただければと思います。よろしくお願ひします。これですね。

では続きまして、その他の項目のところで通告していた分です。これはどこだかわかりま

すかといってもなかなかかわからないと思いますが、これは国道 498 です。国道 498 でここが豊田合成であります。豊田合成。地域活性化の部分で質問していますが、豊田合成が工場のLEDをやめてちょっと集約するということが発表されました。私が知っている限りでは、約 100 名ちょっとの従業員さんがいらっやったと思います。100 名ぐらいの方が働いていました。さらにその 100 名の中の 50 名以上が武雄市内から通われていたと認識しております。

でもその人達が今度は福岡工場のほうに行く。ひょっとすると家族ごと行かれるかもしれない、ひょっとすると単身赴任かもしれない、ひょっとすると、じゃあ仕事別に探しますと言われるかもしれない。いろんなパターンが考えられますけども、事実は事実、工場は集約すると。福岡のほうにお願いしますということで従業員さんには話がきているらしいですし、新聞でもそのように載っていました。

そういう中で一つだけいいなっていうか助かるかなと思ったのが、将来的に来年を目処にLEDではなくて本来の、車のパーツ工場のほうでやっていきたいと計画しておりますということでありました。そういう中でですね、1回福岡のほうに皆さん行かれています。そういうなか、武雄市としてどのようにこの問題を動くのか。せっかくいろんな企業を誘致して雇用がこれだけ生まれました、これだけしましたという中でここがちょっとマイナスになってしまう。

ぜひですね、例えば仮の話ですよ。自動車部品が再生したら、武雄市の従業員さんは優先してこちらのほうに異動をお願いしますよという申し出ができるのかできないのかどうか。申し入れですね。向こうのほうに行って、車のほうに行って、いやいやLEDにずっとおってもらわんぎ困るよとかじゃなくて、こっちのほうでしたら、優先してそういうふうに戻す、戻していただくような申し出、そういう申し出とかできるのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

豊田合成株式会社さんは武雄に来て四半世紀、雇用にくわえてですね、地域貢献ですとかLEDを寄贈していただいたり、武雄にとってなくてはならない企業であるというふうに感じております。

その上で、どこまで一企業に行政側の申し入れることができるのかということはあるんですけども、この8月に私もこういった情報を仕入れたので、直接本社に行きまして宮崎社長に話をしてきました。雇用の継続とですね、そして再稼働のお願いです。社長からは新聞にも載っていましたが、来年度中には再稼働をというふうな返事をいただいたところで

やはり今回、地元雇用 100 名中大体 50 名ぐらいだと思うんですけども、皆様方は福岡のほうに転籍をされるか本社のほうに行かれるかということですけども、少なくとも御本人のですね、希望があった場合には地元の方の再稼働したときの雇用を優先していただくように私からも再度社長に申し入れたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

力強い言葉、本当感謝申し上げます。やっぱり会社組織、職員さんもそうなんですけども、上からの人事でもやっぱり従わざるを得ない。そういう中で、やっぱりそういうふうな申し出を市長として強くやっていただくということは、これから転出していく武雄からの 50 名という中でもそういう希望をもって仕事が出来られると思うので、ぜひそういうのは間見て再度再度話を持っていっていかれればと思います。本当にこれはそうやって申し出をされていることは感謝申し上げますし、これからもそういう運動をしていただければと思います。

では、次でございます。これは散歩。武雄、なんでしたっけ。タケさんぽ。タケさんぽ。大楠だから大楠さんぽってなっちゃった。タケさんぽで多くの方 100——これは若木町なんですけども、今まで山内町をやられました、こうやって若木町されました。次は北方町だったかな、どこかあると思うんですけども、これをやっていただいて物すごく人が来ていただいて私地元を歩いていただいて感謝しているんですけども、そういう中でこれを次にどうやって生かすんだ。タケさんぽのコースを設定して、こうやって来ていただいた 1 回目。2 回目、3 回目とかいろんな部分でこれをどう次につなげるかっていうのがなかなか見えない部分がある。

例えば、いつも私ここで例えばという言葉を使うんですけども、例えば武雄市内の人たちにもっと武雄市内部のことをわかってもらうためにまだこういうものを 2 回、3 回続けますよという意味合いもあるかもしれない。そして例えば移住希望者の人、福岡からバスをしてここのタケさんぽをコースにして見てもらうっていうのも一つかもしれない。もう一つの観点からは健康を質問されましたよね、先ほどやったですよ。健康の面でこういうのを推進していく。

いろんな考え方、想像はできるんですけども、このタケさんぽコースを設定して次にどうつなげるかという部分をお示しいただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

御紹介ありがとうございます。スライドを使わせていただきたいと思います。（モニター使用）

先ほど御紹介いただきました若木のタケさんぽでございますけども、このようにたくさんですね、黒髪の第一弾に続きまして第2弾の若木コースでございますけども、170名参加をいただきました。議員さんも御参加いただきましてありがとうございます。本当に、大楠のパワーといいますか、若木ののどかな風景をコースの魅力を五感で本当に体感していただきまして、大変好評でございました。

このウォーキング、トレッキングの人気がある中で市長がいつも言っていますように、地域資源の再発見ということが1つ、掘り起こしも含めてですね。それからコースを歩いていただきまして、先ほど御紹介いただきましたように健康寿命を延ばすという意味で健康面でございます。それからさらに観光客の誘致にもつなげればというふうに思っております。

今回のイベントではですね、このように年代ごとに集計をいたしましても10代の若い方から70代の方までですね、非常に手前味噌でございますがこういったウォーキングコースを設定しますと、たくさん世代の方、あらゆる世代の方に御参加いただくという形で私どももまた再認識をさせていただいております。

特に若木の場合は、向こう側に見えますカレー屋さんですね。移住をされましたカレー屋さんのところで、エイサーの演舞がっておりますけども、それを手前のウォーキングを、このタケさんぽに御参加いただいた方、これは地元の方も、それから市外の方も、県外の方もいらっしゃるんですけどもこのようにごらんいただいております。これは何が言いたいかといいますと非常に移住者、地元の方、それから観光客の方が一体となって参加している場面という形で非常に印象深いところでございますので、こういった田舎体験、スローライフの提供としても非常に魅力があるのではないかとこのように思います。

今後でございますが、今後はほかのところについてもエリアを設定いたしまして、マップをつくっていきこうと思っておりますので、こうした人、物、文化、歴史などをですね、生かしたコースということで内外のほうにPRをいたしまして、特に季節にあった最適なコースなどと銘打ちまして、旅行会社のほうにも積極的にセールスを売っていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひですね、こうやって次につなげるようないろんな目的をもってやって、そして継続していただければと思います。

次の質問です。次の大きな2番。IT推進についてですけども、先日ですけども台風12号直撃コースだったですね、見るからに。うわー久々に来たと思いました。実際大したことはなかったんですけども本当に準備された方は多いと思います。私もそうでした。

うち家が古いのでですね、これ窓だったんですね、お縁というところなんですけど。ベニ

ヤでうってさらにそれでバンバンするんで補強して、やっぱり準備するんですね。やっぱり準備しました。そういう中で、これも以前から質問してますIT推進ですね、防災。ずっと言われているんですけども、想定外ということがいつも言われているんですね。今回の熊本震災にしっかり北海道、岩手の台風被害しかり、そして去年の鬼怒川。いつも使われているのは想定外となりました。3月議会、6月議会ともそういうふうな防災・防災システムを取り入れたらどうか、そういう言葉をいつも使わせていただいております。

そういう中で今どの程度進んでいるのか、市役所のIT化もそうです。どの程度進んでいるのかということをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

6月の議会以降、関係します安全安心課、それから施設整備課、企画課、広報課、市民課、こういった課をまとめて検討グループをつくっているところでございます。各情報収集、そして調査・研究を進めております。相互に持っております情報、こちらにつきましても意見交換を行ってきているところでございます。

またこの結果、それから継続して検討する内容につきまして、最終的には新しい庁舎も控えております。こういった情報、災害の情報システム、そして庁内の情報システム、こういったものの整備に向けて今後仕様書、こういったものを作成する形になっていくと思っております。来年度の予算計上を目指して作業のほうを引き続き進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

さっきから言っているんですけど、やっぱり想定内に収めなきゃいけないんですね。これ何でわざわざ僕がやったの汚いんですけどこれね、汚くやっているんですけどめっちゃ強いんです。最初ボワンボワンしていたから調子悪いんだってこれ付け加えてこれ付け加えてやってもう完璧でしたね。瓦当たっても大丈夫っていうぐらい。でも何もなかったですね今回。何もなかったんですけども、やっぱり準備はせんぎいかんとですよ。何もなかったけんが、がんとして世話やったねと言われるかもしれんけど、準備しているからこそ安心して台風を迎えることができた。準備しているからこそ安心してできた。だから今度の防犯システム、いろんな、例えば市役所のシステムにしても過剰と思えるかもしれないけど命がかかわっている。市民の生命財産がかかわっている、過剰と行っていくらやってもいいと思います。ですからきちんとそういうふうなシステムの確立を目に見える形で、なかなか今、さっきの、質問しました、どの部分だったかな。なかなか見えないという部分をいいましたよね。土地

システム、家屋システムの方で。ですからこれは終わりは決まっているんですね。庁舎ができるまでですから。

予算計上がそろそろもう行われると思います。庁舎とかいろんなシステムの。それから考えていっちゃ遅いんですね。やっぱりこういうシステムっていうのは前もってプロジェクトチームとかつくてやってこれぐらいかかります、こういうシステムが出ますと初めて予算要求ができる。そういうふうなメーカーというか、そういうところと話し合いができる、システム開発ができるとなるので、ぜひ目に見える形でやっていただければと思います。なかなかですね、進み具合がわからないというのはさっきの家屋システム、不動産システムと一緒になんですけども、ぜひ一番我々が見やすいのはプロジェクトチームをつくってもらった、こうやって進んでいるんですよということになるのでわかるんですよ。

こういう防災システムっていうのはひょっとするとチャンスかもしれないんですね。何がチャンスかという、いろんな災害があつてるからじゃないですよ。今村先生が、今復興担当大臣になられましたよね。あれ防災も含まれていますので、そういう意味で今村先生こういうことで予算何とかありませんか、こういう言い方はおかしいと思いますよ。そういうものもありますかって言っているじゃないですか。そういうのも一つのチャンスかもしれない。

そういう中でもう一つ頭の中に入れていただきたいのが、武雄市は6月二十何日に全市避難勧告っていうのが出ました、さっき言ったように。私が知っているかぎり初めてだったんですね。初めてだったんですよ。それも今まで想定されていなかったことが起きる。だから準備にきちんとやっていただきたい。先ほどやっているということでもいわれたんですけども再度市長こういうシステム、きちんとした市民の生命、財産、そして新市役所のきちんとした機能を持たせる、その意気込みをお伺いして私の質問の最後にさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

安心安全は何より大事なことです。私も先般の議会で防災情報システムの件についてはしっかり進めるといふふうにお約束をいたしました。

先ほど部長からもありましたとおり、30年に恐らく庁舎ができあがる。逆算すると29年度の当初予算には当然計上しておかなければならないものだと。それを逆算するといふと、あまり時間もないといふふうを考えております。とにかく来年の当初予算の計上を目指して、今5つの課でグループをつくって進めていますので、まさにこれはプロジェクトチームだと思っていますので、そこでとにかく時間ありませんのでその間で進めていきたいといふふうを考えておりますし、ぜひその間にはですね、IT特別委員会のほうからもいろいろとアドバイスをいただければと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

終わります。終了します。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、20 番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、モニター準備のため 10 分程度休憩いたします。

休	憩	14時26分
再	開	14時36分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、15 番末藤議員の質問を許可いたします。15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

（全般モニター使用）今、議長から登壇の許可をいただきましたので、末藤正幸の一般質問を始めます。長くても 1 時間でございますのでしっかり辛抱して聞いてとってください。

まず私のきょうの質問は、1 番に安全・安心について。2 項目ございまして、地域防災計画について、避難施設についてということでございます。これは先ほどの質問でもあっておりますので簡単にいきたいと思います。

2 番目にがん検診についてということで挙げております。よろしく願いいたします。

それでは……（発言する者あり）それでは質問に入らせていただきます。

先ほど 20 番議員の質問でもあっておりましたけれども、防災、これは本当にまだ復興半ばの東日本大震災から 5 年目の 4 月 14 日と 16 日、熊本地方に震度 7 の前震、本震ということで 2 回続けて震度 7 の地震が発生しました。死者 64 名、これ住宅でいいますと全壊家屋が 8,549 棟、半壊家屋が 2 万 7,728 戸というふうになっております。そういうふうな甚大な被害をもたらしました。また先日は、長い間太平洋を迷走した台風 10 号が観測史上初めて、東北地方に太平洋側から勢力を持ったまま岩手県に上陸したわけでございます。この台風で河川が氾濫し、本当にとうとい命がたくさん奪われました。被災された方に対しまして、お悔やみとお見舞いを申し上げる次第でございます。本当にこういうふうに大きな地震が、災害が、立て続けに日本を襲っているわけでございます。

ここで質問でございますが、4 月に発生した隣県ともいえます熊本県での地震災害、これに直面された市長に対しましてどのような思いを持たれたのか、ここでお尋ねをしたいと思います。よろしく願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

4月に起きました熊本の地震ですけれども、やっぱり私はこれを見てですね、とにかく安心して安全に暮らせるということがいかとうといことかというのを実感をしました。実際、私も熊本に行きましたけれども印象に残っている言葉が2つありまして、1つは熊本県知事が言われてた言葉なんですけれども、まさか熊本で起きるとは思っていなかったというふうに言われていました。先ほどの質問にもありましたけれども、もはや想定外ではなく想定内である。いつ何どき起きるかわからないということで、私たちは今回の熊本地震を教訓に、とにかく早く対策を打たなければならないと、そのように考えております。

もう一点は地域のつながりが強いところほど復旧や復興も早いというふうに、これも熊本県知事が言われていたんですけれども、これも印象に残っています。自助、共助、公助といいますが、公助だけではやはり限界があると。自助とそして共助ですね。地域のつながりというのをやはりふだんから強めておくことが、ひいてはこれは防災にも災害対応にもつながってくるんじゃないかなというふうに考えております。

いずれにしましても最初に申し上げたとおり、とにかく安心して暮らせるというところのとうとさを考えて、とにかく早目早目に手を打っていく必要があると、そのように感じております。

○議長（杉原豊喜君）

15番末藤議員

○15番（末藤正幸君）〔登壇〕

市長どうもありがとうございます。今熊本地震について考え方を述べていただきました。熊本地震、本当に九州で、またすぐ近くの熊本県で震度7の地震が起きるとは本当に思ってもみませんでした。地震災害は本当にいつどこで起こるかわからないということを再認識したわけでございます。今や住民の安心・安全を守るためには、先ほどの質問でもございましたけれども本当に想定外という言葉は許されないときになってきたわけでございます。あらゆる災害を想定して、あらゆる災害に対応しなくてはならないというふうに思うわけでございます。

今回、熊本地震を検証し、課題を抽出して武雄市地域防災計画を修正されたということでございますが、この熊本地震の課題を検証し、どのようにこの地域防災計画に反映されたのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

モニターをお願いします。（モニター使用）今回、先ほどからありましたように熊本での震度7の震災を受けて、それ以外にも水害、台風、いろんな災害がありますけれども、特に

この震災を受けての見直しがなされております。モニターごらんいただきますように、防災施設の安全ということで、御承知のように宇土市役所が壊滅状態になって全然庁舎として使えなかった。あるいは防災拠点になり得なかったということの反省も含めて、実際そういった被災があったということで災害に強い庁舎、あるいは避難施設の安全確保、それから見直しをということでの視点で修正を加えております。

それから事前対策ですけれども、行政自体が被災をして事業継続が困難になったり、あるいは応援側と受援側のニーズの不整合があったりとか、あるいは応援職員に対する環境整備が不十分、あるいはNPO団体やボランティアが機能していないということで、とにかく機能すべきところが機能しないという状況にどこでもなっているような状況もありましたので、そうならないような状態の想定をして、BCP計画といいますけれども業務の継続ができるような計画をつくるべきであると。

それから応援をするこちらからの体制は何回か経験をいたしておりますけれども、自分たちみずからが被災をしたときに、じゃあどうやってその受け入れをやるのかということについても改めて考えておく必要があるんじゃないかということでの視点を加えて修正を行っております。

それから避難所につきましては、避難者の状況把握が困難であった、それから避難所運営に膨大な労力がかかったという反省のもとにこの避難所開設の運営マニュアル、あるいは避難所の機能強化と、それから避難者のニーズの把握をICT等での活用を凶ったらどうかということも含めて修正を加えております。

また物資輸送につきましては、国あるいは県が直接、プッシュ型といわれましたけれども物資を速やかに送るということではありましたけれども末端まで届いていないという状況の中で非常に物資の不足が訴えられたということがありましたので、そういった面の見直しを加えております。

それから、先ほど市長が申しあげましたけれども、やはり一番近場における隣保班なり共同体なり自治組織なりというところでの個人の備え、あるいは共助、ともに助け合うという気持ちの調整も含めて必要ではないかということで修正を加えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

先ほど申しましたとおり、想定外というのはもう今通用しません。そういうことで、この地域防災計画の中で今、武雄市としてどのような地震が起きるのか。震度幾らの地震が起きるかということで想定をしているのか。想定された場合、どういう根拠があってその震度を想定されているのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

地震の想定ですけれども、武雄市においてはここに佐賀平野北縁断層帯というのが佐賀県の中央部を走っているということで、赤の周辺に黒の線を入れておりますが、これが今想定をされている佐賀平野北縁断層帯ということで、これは直接武雄市の中までは入っておりませんが、これは大町のところまで来ておまして、以前はマグニチュード6.5ぐらいの想定があつたわけですけれども、今回は佐賀県のほうもマグニチュード7.5が想定をされるということでその結果、武雄市内でも一番大町寄りについては震度7が想定をされておまして、ちょっと赤みが入ったところでございます。

そして、中央部については震度6。そして市中央部から西側については震度6弱というふうな想定がなされております。この想定においては建物被害、全壊・消失が1,600棟と、それから半壊が3,200棟。人的被害については最大で死者100名、負傷者650名ということでの想定をされているところでございます。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

15番末藤議員

○15番（末藤正幸君）〔登壇〕

わかりました。震度7というふうに予想をしておられるということで計画されているということでございます。

先ほどの説明の中で、避難所の安全確保というようなことで見直しもしたということでございます。ここにモニター出しているのは、建物ばかり写真を撮っているわけでございます。ここに防災無線のようなスピーカーの電柱も倒れている写真もあります。私は熊本に行つてはおりませんが、これは私の友達が撮ってきた写真をいただいて掲示をしているところでございます。

今回の地震は2回、震度7レベルの地震が来たということで、1回半分倒れたところに、また地震が起きてそのまま崩れていったということで最終的にはこういう状態になった。最初の写真は、まだ1回目のときには立っていた建物もあるように聞いております。そういうことで、続けて2回こういうふうな大きい、前震とか余震とかいうかわかりませんが、そういう地震が発生したということで、そういう想定も必要ではないかというふうに思います。その避難所でございますけれども、確かに地震の来たり壊れたところを指定しとつてもいけないわけでございます。

また、風水害のときの避難施設、これは地震ではありませんので揺れに対して云々はないと思いますけれども、やはりそこに避難されて水害が起きる。また水害が起きる前に起きる可能性として危ないところから避難をされるとかですね。そしてひょっとしたら一日、一晩じゃなくて何日も過ぎさにかいかんという場合も出てくるわけでございます。そういうことで

避難所というのは環境もよくて生活環境もよくて、そして安全が確保されている建物じゃないといけないと思いますが、今の説明の中で避難所の見直しもされたということでございますが、その内容を説明してください。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

避難所の見直しも行いましたということで御説明を申し上げましたが、熊本地震におきましては天井やガラスの破損、あるいは周辺の土砂崩れなどによって閉鎖された指定避難場所があったということでございまして、これを受けまして今回の修正では、今の見直しをする前は耐震基準を満たしていない施設、なおかつこのほど土砂災害警戒区域の見直し、危険区域の見直しがございましたけれどもその危険区域内にある避難所がございました。その確認をいたしまして7施設について取り消しを行っております。その土砂災害警戒区域にあったということで取り消しの避難施設としましては橋公民館、朝日公民館、西川登公民館の3つでございまして、耐震基準を満たしていないという施設におきましては山内農村環境改善センター、それから山内中央公園スポーツセンター、北方スポーツセンター、北方西体育館、この4つの、計7つの取り消しをいたしたところでございまして、文化会館につきましては、耐震基準は満たしておりませんので、地震における避難場所には向いてないということです。ただ風水害ですね、その折りには使用をしていきたいというふうに考えております。

それから地震、先ほどおっしゃいましたように長期にわたった場合に人数が多い避難者となった場合に、それを全部収容するというには不足をいたしておりますので、今後は自治体公民館等も含めて、あるいは民間の宿泊施設、あるいは福祉施設等も含めて応援協定を図るなどして確保を図っていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

15番末藤議員

○15番（末藤正幸君）〔登壇〕

防げる災害は未然に防ぎ、発生した災害は被害を最小限に食い止める。まだ災害時の緊急対応のためには国、県、それからまた他の行政機関、団体、それから民間企業など外部からの今答弁でも言われましたとおり応援協定を結んでいかなきゃいけないというふうに思っております。協力を受けて、そしてそういう初期の役目を果たしていかないかと思っております。

そういうことでこの防災計画の中にも前の改定されたとき、策定されたときに概要版にもそういう応援協定の内容を書き込んでありました。そういうことで今回、応援協定がどのようになっているのか。また今後その応援協定といいましょうか、そういう企業または自治体、今後どういうふうな問題を考えておられるのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

(モニター使用) すみません、お待たせしました。

先ほど応援協定と申し上げましたが、既に現在、応援協定を締結しているものにつきましては国、県、市町村につきましてはごらんとおりの相手方ございまして、国交省、九州地方整備局、それから武雄河川事務所、そして佐賀県と県内の全市町。それから遠くは災害相互応援協定ということで大阪府の高槻市、それから九州新幹線の沿線でございます長崎市、諫早市、大村市、嬉野市、それから伊万里市がございます。

それと民間企業、あるいは団体の皆さんと今応援協定を結んでいる状況でございますが、応急対策業務に関する協定を市の建設業協会、管工事協同組合、緑生会、建設協力会という形で結ばせていただいております。また医療につきましては巨樹の会新武雄病院。それから飲料水につきましてはサンセイ、アクアクララ佐賀ということで、これは清本さんの会社でございますが、ここと行っております。また物資供給に関する協定としましては東部地区にありますコメリと災害協定を結んでおりまして、コメリ災害対策センターと結んでおります。あとはLPガスにつきましては、県のLPガス協会武雄支部。郵便局につきましても協定を結ばせていただいております。ことしになりましてコカ・コーラウエスト様との協定を結んだところでございます。

今後につきましては支援物資、あるいは災害時における応急対応というふうなことも含めまして考えて結んでいるわけですけれども、今後はまたほかの面ですね、災害の避難所へのトイレの対応だとか、あるいは物資供給輸送の面についての運送関係での対応だとかはまだ十分ではございませんので、そういった方面についても協定が結べるように対応していきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

ありがとうございます。いつも大きな災害があるわけではございません。災害は忘れたころにやってくるといわれます。協定ばかり結んでも災害発生時に機能しなくては何もならないわけでございます。こういう方たちとの連携、そういうまた事前の訓練、こういうことも必要になってくるかと思いますが、そういう連携についてどういう問題があるのか、今後訓練とかそういうことを考えておられるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

実際おっしゃられたように、たびたびあるものではございませんが、こういった大きな災

害がある中で皆さん方御協力をしましょうということで協定を結んでいただいております。

実際に協定がうまく活用できるようにしていく必要ももちろんあると思いますが、今ここに協定を結んでいただいた方々との通常の情報交換、それから市も防災訓練等、ことしは中止になりましたけれども実施をいたしておりますので、こういったいろんな取り組みに対して日ごろから情報交換と訓練への参加を求めて、もしもの場合のときの動きがスムーズに回るような取り組みにつなげていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

ぜひそのようにして、協定が十分生かされるようお願いしておきたいと思います。

それから、先ほどの答弁の中でも触れておられましたけども、今回の熊本地震でも支援物資、これが端末といいましょうか、ある一定のところまで来てもその後の配分といいましょうか、細部にわたっての物資が行き渡っていなかったということも聞いたわけでございます。

そういう物資の配分といいましょうか、搬送、そういうところも今度の防災計画の中で反映されているのかお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

物資の供給についてでございますけれども、御承知のとおり熊本震災のときには国が主導権を握って当初の物資補給については動いたわけですが、県を通じて市町村の物資の拠点までは想定をしてあったわけですが、その末端までおっしゃるとおり届いていないというふうなことで今回その部分の手当てが十分じゃなかったということで、今回の熊本地震につきましては熊本市内に届く前に鳥栖の流通センターにとまってしまったというような状況も見受けられたということで、その反省のもとに今後効果的な輸送システムの構築をするということでございますので、そこら辺も改善される、我々も考慮をした上で設定をせにゃいかんと思います。

また道路アクセスが寸断されていると。道路の状況が全く崩壊をしてしまって、トンネルあるいは橋梁が落ちてしまったという状況の中での輸送についてはもう物流業者では困難ということでありましたので、自衛隊の走破力のある車両、あるいはヘリを使った支援物資の供給をもっと整理をしていく必要があるんじゃないかということでございます。また必要なところに必要な物資ということで、これは段階に応じて必要な物資も変わってまいりますので、これについてはニーズに応じた物資の補給も考えていく必要があるということで反省点が述べられております。

これらの反省点を受けて、武雄市においても配送について、あるいは物資の拠点について

末端までこういった形で届けたほうが一番効率的なのかというのを再度見直して、補給に対する体制をつくっていきたいというふうに思います。実際そういった計画は立てるものの、運用経験がないために我々自身もパニックって届けられないというところもありますので、やはり想定外の想定ではなくて、やっぱり実際にやる想定という観点でシミュレーションを含めて十分訓練をしていく必要性を感じております。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

貴重な支援物資でございますので、有効に活用できますように計画をしていただきたいと思いますというふうに思います。

先ほども質問あっておりました。武雄市は観光も重要な産業でございます。そういうことで市長のトップセールスでインバウンドのセールスもやっておられるということでございます。そういうことで観光客も海外の方、韓国の方が結構来られて6,000人も訪れられたということでございます。そういうことで災害というのはいつ起こるかわかりません。そういうふうな観光客も、日本の観光客ばかりでなく海外からも武雄市に訪れるということで、そういう観光客にも危険予知といいますか危険なこと、そういう災害があったときの避難場所、そういうようなところも伝えていかないかというわけでございます。その辺はこの防災計画の中でも反映されているのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

確かにその点、非常に大事だと思っています。高齢者ですとか障がい者、加えて外国人の方ですね、ここに対しての防災計画上は外国人の方へのボランティアをしっかりと整えておくとか、そういうことが今回策定された中で記載しております。

あわせて、いざ自分が外国に行って災害に見舞われたときに自分だったらどうするのかというのをちょっと考えてみました。普通に皆さんも考えるのは恐らく大使館に行くとか領事館に行く。あとは大使館、領事館に電話するということが考えられると思います。外務省のホームページにもまず大使館や領事館に電話してくださいと書いてありました。そういったことから逆に、外国から武雄に来られた方の気持ちになったときに、じゃあ災害が起きたと。特に地震に不慣れな国から来られたときにどうしようかというふうに考えると、例えばツアーだったらツアーガイドさんに聞く。あるいは旅館だったらもう旅館の方に聞く。あとは市役所を探してそこに電話する。もしくは直接行く。あるいは近くに観光施設、建物があればそこに行って聞く。そういったようなことが考えられると思います。この点は非常に大事ですので、今後私たちとしてもまたさらに再改定もしていきますので、それぞれ外国人の

方が頼りにしそうな施設に対しては、私たちもしっかりと避難所がどこにあってどういうふうに行けばいいのかということはお伝えし、協力をお願いするというのが一つ。

もう一つは、やはり本当に災害のときはひょっとしたら英語でSNSで流すとか、そういうことも必要になるかなと思っています。

今回、貴重な御指摘いただきましたので、ぜひさらに我々も執行部の中でも議論をして防災計画にも反映していきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

市長が今述べられたとおり今、日本人の方は普通の一般のメールで大体災害の発生や避難場所、そういうのも武雄市から発信しているので受け取れてわかると思います。

しかし今言われたとおり、外国の方は日本語がわからない方がほとんどだと思うわけですよ。そういうときに、普段のメールを見てもどこだろうかと慌てた上にそういうようなことになりますので、ぜひ今言われたとおりそういう関係機関にすぐ連絡がとれるように対応をとっていただければ大丈夫かなというふうに思います。

やっと次に移れる。これは、国土交通省の防災に関する防災タイムラインというものでございます。ひな形になってホームページからダウンロードした資料ですございますけれども、これは大体アメリカでできたプログラムでございまして、アメリカのハリケーンに対応した災害対策の行動計画のタイムラインでございます。上陸にあわせて時間を逆算して、いつ誰がどういう行動をとるのかというのを書きあらわした図でございます。これと似たようなことは今も当然対応しておられると思います。

この前の台風 12 号も本当にいつときはどうなるのかと思っておりましたけれども、上陸する前に勢力が衰えまして事なきを得たわけでございますが、まだまだ台風等も今からも発生するようございますので、この辺のタイムラインというかこういう防災行動計画、こういうものは武雄市としては策定されているのか。ほかの自治体は有効に活用されているというようなニュースでもいっておりました。この辺はどうなっているかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

タイムラインということで行動計画ですけれども、台風ごと、あるいは大雨ごとということでのそれぞれのタイムラインを作成は現在していないところですが、通常、警報が出た場合に情報連絡室から――準備室から連絡室、それから本部という形で体制をとっていきます。これは、これまでの経験上からつくってきた見えないタイムラインの状況で、担当者としてはそれをもとにマニュアル化をして動いているわけでございます。

今回の台風 12 号につきましても被災者といえますか、住民への被害が極力最小にとどまるようにということで、前日の 4 日の午後 2 時に避難所の開設をして自主避難を促したところではございます。

そういったことで、おっしゃるとおり我々担当者もやめるまでそこに同じところにおけるわけでもございませんし、いろんな担当者の移り変わりがあります。そういった意味で御指摘のタイムライン、台風あるいは大雨、地震というものを想定してこういったタイムラインを決めておくことについては重要と考えておりますので作成に向けて作業を進めたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当に大事なものでございますので、日ごろからこれと同じようなタイムスケジュールといたしましょうか計画はつくってあると思います。これは国土交通省のあれでございませけれども一番右が国土交通省、それから交通、それから市町村、それで住民という役割でいろんな行動計画、この時点で台風が上陸したと、これが以前の行動。これが台風が上陸した後の情報、行動ということで書きあらわしてあります。そういうことを各関係機関、また市町、それは行政ですね。それから住民、また消防とか警察、いろんな行動の計画があると思いますのでぜひつくって、そういうマニュアル化をしていただきたいというふうに思います。

それでは次の質問。これは避難施設でございます。避難施設については先ほども質問の中でアセットマネジメントということでありました。私もそのことで尋ねたかったなということで質問を上げております。というのは今回、今答弁聞きますと耐震になっていないところ、こういう今まで避難所としていたところは今回避難所の見直しとして削除したということ聞きます。

ちょっとここに写真がございまして。これは武雄市内の代表的な体育館でございまして、真ん中が白岩体育館、それから右側が山内スポーツセンター、北方スポーツセンター。こういうことで先ほどの質問の中でも建設時期というのは 40 年代ということでかなり時間が経っております。しかし、ここもいざというときには避難所としてやはり使わないといけないというようなことも出てくる可能性もあるわけでございます。しかし、そういうようなところが耐震基準を満たしていないということで避難所としては外されているということでございます。しかし、外しばかりでは何もならないわけで、先ほどの質問でもありましたとおりこれを建て直すとかリノベーションするとか、そういうことになればお金もかかるわけでございます。

そういうことでどうなっているかということでお尋ねしたかったわけでございますが、アセットマネジメントというそういう計画を、ことし中につくってそれに枝をつけていくとい

うようなことも説明がありましたので、その辺は質問から割愛しますけれども、ぜひとも建てかえとなるとかなりのお金がかかると思います一棟一棟ですね。しかしリノベーションとかいろんな方法があります。今、山内西小学校のほうでも鉄骨だけにしてあとは屋根をかえ床を張りかえ、そういうふうにしてまた若干の間仕切りとかかえればまた違った利用ができる体育館になると思います。

そういうふうなことで、基礎まで全部やりかえなくてもリノベーションや耐震補強とか、そういうことをやって使っていけば今使えるうちにそれをやっていくということが必要じゃないかなと思うわけでございます。もう使えんことになってから劣ってきてから建て直しというよりも、やはり使える間にリノベーションをして長く使っていくということ。橋とかですね、そういう橋梁とか何とかも今そういうふうなことで国の政策もとられているようでございますので、ぜひお願いしたいと思います。

山内町の山内スポーツセンターのこれ天井なんですけども、ちょうど見てごらんになってわかるとおり、天井が非常にこうムシキレみたいになって焦げているわけですね。ちょっと小さくてわかりにくいかわかりませんがこの天井、断熱のためだと思いますけれども天井があります。そういうことで断熱材がむき出しになっているわけですね、化粧板が剥げててですね。落ちるという不安もあられるかもわかりませんが、落ちることはなかかなと思いますけれども、非常に見苦しい。スポーツをやっている間はボールとかそういうことに集中しますので天井に気がつかないかもわかりませんがですね、ここは避難所から今外されておりますので避難所にもしなった場合天井を見てそこで寝っ転がったら非常に不安だろうと思うわけでございます。そして非常に見苦しい。

これは今のリノベーションじゃないです。アセットマネジメントで計画をする前にもここだけは何とか手を入れて修繕ですね、応急処置、何かできないかお尋ねをしたいと思います。

(発言する者あり) よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事（発言する者あり）

○水町こども教育部理事〔登壇〕

山内中央公園スポーツセンターの状況については、私どもも把握をしております。

ただ、その危険性とか緊急性については大きな判断基準にはなりませんけれども、補修あるいは修繕の対応となりますと、限られた予算の中でアセットマネジメントの基本方針にのっとり他の施設の状況も勘案しながら優先順位を検討する必要があると考えております。(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

そういう計画の中でこれも取り組むということでございますがやはり早目にですね、ちょっと見苦しいですので取り組んでいただきたいと思います。要望をしておきます。

次に、がん検診についてお尋ねをしていきたいと思っております。これは皆さん御承知のとおりでございますが、主要な死因別、粗死亡率年次推移ということで1947年、それから2014年までの推移でございます。1950年が昭和25年ですね。昭和25年から平成26年ですか。2014年ですから平成26年になります。

ごらんとおり、当然がんが一番死亡率が多いわけでございます。1981年に、がんが追いついております。それまでは脳血管の疾患が死亡率多かったですけれども、ここで入れかわってがんが約30%の死亡率になっております。それから脳疾患ですね。それから心疾患。それから肺炎。ずっと下がってきておりますけれども肺炎は若干、今ふえてきているようでございます。これはワクチンもありますので、その時期に来た方はワクチンを忘れないで打っていただくようお願いしたいと思います。

これは部位別の死亡数。これは予測で、部位別の予測がん死亡数でございます。これは2015年の分でございます。これは今一番多いのが、男性が一番多いのが肺がん、それから胃がん、大腸がん、肝臓、膵臓がん、ベスト5がそういうふうになっているわけでございます。肺がんが25%、胃がん15%、大腸がんが12%、肝臓が9%、そして膵臓が8%ですね。それで女性の方におかれましては大腸がんがトップで15%、それから肺がん14%、胃がんが11%、膵臓が11%、それから乳房が9%ということでベスト5ですね。そういう数字を示しております。今男性のほうは前立腺がんの発見が多いということでこの死亡数もかなり多いということで、ふえてきているということでございますが、これは高齢化とかそういうこともあるだろうということでございます。

次に、これが部位別の罹患数でございます。これも登録して、アメリカみたいに登録してはっきりしたがんの数字というのが把握できておりませんので予測した罹患数でございます。これも2015年で平成27年の分でございます。先ほど申したとおり、男性では前立腺がんが一番罹患数は多く、それから胃、肺、大腸、肝臓、それで食道となっております。女性の方は今乳房、それから大腸、そして肺、胃、子宮というふうなことで罹患をされているようでございます。

そこで、がんの死亡率が一番多いということで全国では3割を占めているということでございますが、武雄の死亡率の状況をお示してください。

○議長（杉原豊喜君）

大宅くらし部長

○大宅くらし部長〔登壇〕

（モニター使用）武雄におきます、がんの死亡率の状況でございますけれども、がん、心疾患、脳血管疾患の三大成人病の中で、がんの死亡率は武雄市におきましても第1位となって

おります。モニターごらんいただきたいと思いますけれども、県の統計によりますと武雄市におきましても、がん、悪性新生物の死亡率は国、県と同様に年々増加傾向にございます。平成 24 年からの 3 回の統計を見ましても人口 10 万人あたりに換算いたしますと年間 300 人を超えているという状況でございまして、本市は人口約 5 万ですので約 150 名の方ががんでお亡くなりになっているというふうな状況でございます。年間約 650 名の方が亡くなっておられまして 4 分の 1 強の方が、がんによって亡くなっているというふうな状況でございます。

これは、がんの部位別の死亡数でございます。市におきます平成 22 年から 5 カ年間のがんによる部位別の死亡原因では、先ほど議員さんからありましたように武雄市におきましても男性は肺がんで、女性は大腸がんで亡くなるという方が多いという数字が出ております。

一方で、がん治療のほうは年々進歩をしておりますして全国統計ではがんと診断された人を見ると男性は胃がん、女性は大腸がんということで全体では大腸がんが 1 位となっておりますけれども、がんと診断されても早期治療により治るという結果が出ているところでございます。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、答弁の中で早期治療という言葉が出ましたけども、早期治療のためにはがん検診を受診せないかんということがあります。がん検診で陽性を受けてですね、精密検査をして早期発見はできるというふうになるわけでございますが、これはがんの受診率を 3 カ年、平成 19 年と 22 年、25 年の 3 つを比べたものでございます。

上のグラフは胃がんの 40 歳から 69 歳まで男女含んだところの全国の統計でございます。紺色のほうが平成 25 年度分でございます。それから大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんというようなことで子宮がんですね、こういうふうに並んでおります。25 年の数字がちょっと男性、女性、この 3 つはふえております。これは国の政策で 5 年置き無料になるクーポンとか、そんなふうに出して政策をした結果がこういうふうに検診で発見された率が多くて、こういうふうに受けられたのかなと思うわけでございます。無料になったことによってそれで受診率がふえているということでございます。

下のグラフは、一番右に書いてあるのは全国です。それであとは佐賀県がここにあります。こう見てみますと、紺色が平成 25 年でございますけれども全国平均よりもふえてはおります。こうしてみると、東京なんかは都会ですから人口が多いし都会ですので少ないかなと思っておりましたけども、東京も大体全国平均並みにはいっています。少ないのは関西ですね、大阪あたりはかなり少ないようでございますけども。そういうことで佐賀は全国平均、これは胃がんのほうはふえております。それで大腸がん、そして肺がんということでグラフはこうありますけどもこれも大体佐賀は全国平均並みですね、大腸がん。それから肺がんも全国平

均よりも若干多いようでございます。受診をそういうふうにされております。

それからこれは女性に限っての分でございますけれども、乳がんの受診率。そして子宮頸がんの受診率ですね。これは佐賀もちょうど全国平均。それから子宮頸がんにしても全国平均ぐらいです、ちょうどですね。そういう統計になっておるわけでございます。

ここでお尋ねしたいのですが、武雄市の受診率はどういうふうになっているか。また、どういふふうな状況になっているかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大宅くらし部長

○大宅くらし部長〔登壇〕

（モニター使用）部位別のがんの受診率の比較表を示しております。

主ながんの受診率でございますけれども、全体的には県平均よりは低いという結果が出ておりますけれども、69歳以下の年齢層、40歳から49歳ですけれども、ここにつきましては子宮頸がんのほうを除きますと県平均を上回っているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

15番末藤議員

○15番（末藤正幸君）〔登壇〕

そしたら県よりも下回っているということもあるようでございますけれども、これは何でこう下回っているのか、市民の方ががん検診に行かれないのか。市はどのように把握をされているのか。

そして、また受診率の向上につながるようになんか検診の対象者の皆さんにどのようなアプローチを今後していこうと思っておられるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大宅くらし部長

○大宅くらし部長〔登壇〕

以前に実施したモデル地区と、がん検診無料券のほうを配布した対象者の方に実施いたしましたアンケート結果から見ますと、受診をしない理由として自覚症状がないという人が約5割いらっしゃいます。それと、受診する時間がないという方が約2割。そのほかでは、自分にはがんにはならないという自信、それから検診のほう怖いというふうな回答結果が出ているところでございます。がんに対する認識の不足ということで、がん検診を受けられていないというふうな状況が見られると思います。（発言する者あり）

すみません、今後どのようながんの対策を進めるかというふうなことでございますけれども、がんを検診することで助かる命というのを守るためには子どものときから早期教育が必要という考えでございます。こういうことから中学生を対象にした市政アドバイザーによりまして、がんについての講演会を平成21年度から開催してるところでございます。ことしは4

月に協会けんぽと協定を結んでおりまして、がん検診等の案内を強化しまして職場あるいは病院等で受診できる人には確実な受診の周知をいたしております。

それから集団検診の日程が合わない人のために、土日の検診につきましては継続して実施をしていきたいと考えております。

また子宮がん検診につきましては平成 27 年度までは、市内の医療機関のみで実施をいたしておりましたけれども現在、武雄杵島地区内の産婦人科でも受診できるようになりました。来年度からは、県内の医療機関で受診できるような体制について検討しているところでございます。

さらに若者の胃がん対策としましては、40 歳未満のピロリ菌の検査を実施しておりますけれども、ことからは県下一斉に中学 3 年生のピロリ菌検査を実施し、初期のがん教育を行っているというふうな状況でございます。

それから今月 9 月は、がん制圧月間でございます。9 月 10 日、12、13 日の 3 日間、追加検診を実施いたします。6 月、8 月の検診を受けてない人につきましては、早期発見のためにぜひ受けていただくようお願いしたいと思います。

それから、がん検診を受診すると健康寿命の延伸を目的とした健康ポイント事業のポイントになるということで、あわせて健康ポイント事業を通じたがん検診の推進にも努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

せっかくの機会ですので、紹介をさせていただきたいと思っております。がん教育につきましては、武雄市は本当に先導的な推進を進めているところでございます。御存じのとおり 7 年前から中川恵一先生の御講演をいただいております、7 年前ということはもう 22、23 歳以下の人は必ずがんについての講演を受けているということでございます。そういうことで、来年度から文部科学省のほうではがん教育を全国的展開をするという指導をされております。一昨年、川登中学校で中学校段階でのあり方を研究してもらいました。

今年度、山内東小学校で小学校における取り組みを研究してもらっております、12 月 2 日には公開をされる講演会を予定されております。

そういうことで今出ておりますグラフでも、ひょっとしたら講演会を聞いた中学生の人たちが親さんに検診に行ったねという一言があったのも理由かもしれないなど。そういうことで全市的にそういう取り組みを進めることができたというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

主にそういう若年層から、小さいときからがん教育をして、そういうがん検診の重要性も教育をしていけばもっと受診率も上がるだろうというふうに思います。

それであと一つ、かかりつけの方からがんの検診とか指導としていわれるのは非常に効果的だというものを何かあるもので見ました。そういうことで、そういう医師会のほうにも伝えていただいて、がん検診を進んで受けられるようにということで患者さんのほうにも伝えていただければというふうに思います。

がんが一番効く特効薬、これはがん検診だといわれております。

最後になりますが、きょうの一般質問をごらんになっている市民の皆さんにはですね、がん検診をぜひ一人でも多く受けてもらうようお願いをし、災害や病気で亡くなる方が一番少ない、日本一少ない武雄市を目指して頑張ってくださいようお願いをいたしまして質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、15番末藤議員の質問を終了させていただきます。

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 15時34分